

参 考 資 料

世界ジオパークネットワークに参加するためのガイドライン

ジオパークの自己評価と進捗状況評価用紙

各種資源の集積状況・・・地図

地質資源・・・・・・・・・・地図、一覧表

文化財・・・・・・・・・・地図、一覧表

天然記念物・・・・・・・・・・地図、一覧表

四国の特異な植生・・・・・・・・・・地図、一覧表

博物館及び資料館・・・・・・・・・・地図、一覧表

環境団体等・・・・・・・・・・地図、一覧表

酒造・・・・・・・・・・地図、一覧表

食文化・・・・・・・・・・地図、一覧表

食・・・・・・・・・・地図、一覧表

四国ジオパーク検討委員会委員名簿

同上 検討分科会委員名簿

同上 WG検討会委員名簿

世界ジオパークネットワーク に参加するためのガイドライン



United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization
Organisation des Nations Unies pour l'éducation, la science et la culture



各国のジオパークが
ユネスコの支援を得て
世界ジオパークネットワークに参加するためのガイ
ドラインと基準

(2006年9月)

ジオパーク – 地球遺産を発展させ、地域社会を維持する

世界ジオパークネットワーク – 景観から、地質遺産の保護、研究、そして持続性のある開発への道を探る

はじめに

最近になるまで、地域的、国内的に重要度の高い地質遺産の国際的な認定や、国際的な保全条約はありませんでした。ユネスコが主導してジオパークを支援するようになったのは、地球の遺産ともいべきもの、その景観、地質学的構造が生命の歴史を見つめてきた重要な証人であり、その価値を高めるために国際的な枠組みが必要だと、多くの国が表明したことに対応するためです。地球上の社会、文明、文化の多様性は、その地域の地質や景観の影響を大きく受けてきました。

2001年6月のユネスコ執行委員会の決定(161 EX/Decisions, 3.3.1)を受けてユネスコは、地質学的に特別意義のある地域や自然公園を展開“するための努力を加盟国に対し支援する”ことになりました。ジオパーク構想とはユネスコの支援を受けながら、地域の社会経済的、文化的発展と、重要な地質遺産の保護を、環境保護対策をとることで両立させようというものです。

本書はユネスコの支援を受けてジオパークを作り上げ、世界ジオパークネットワークに加入する際の指針となるものです。応募に際してはこのガイドラインをよく読んで、各条項を順守してください。第三者の専門家グループによる世界ジオパークネットワークへの応募評価も、このガイドラインに沿って行われます。

ジオパーク構想により地質遺産や地質学的な多様性を守ることは、1992年にリオデジャネイロで開かれた国連環境開発会議(UNCED)で採択され、2002年の持続可能な開発に関する世界首脳会議(ヨハネスブルグ・サミット)において再確認された、21世紀に向けた環境と開発のための科学的課題である「アジェンダ21」の方針にもかかっています。また、ジオパーク構想は1972年の世界遺産条約に新たな一面を付け加えるものです。つまり、社会・経済・文化の発展と自然環境保護の相互作用という可能性に光を当てています。

世界ジオパークネットワークは、ユネスコの世界遺産センターや、生物圏保護区域世界ネットワーク「人間と生物圏(MAB)」のほか、地質遺産保護に関わる各国の、あるいは国際的な取り組みや非政府組織の活動と、互いに密接に関わりながら活動を行います。ヨーロッパ各国のジオパークについては、ユネスコはこれまで欧州ジオパークネットワーク(EGN)と特別な連携を築いてきており、それ以外の地域でも、それぞれの場所の条件に応じて同じような地域ネットワークを作ることを推奨しています。ネットワークのメンバーどうしのネットワーク作りは、世界ジオパークネットワークの活動の重要な要素です。ユネスコは、ジオパーク同士のあらゆる形の協力、とくに教育、運営、観光事業、持続可能な開発、地域計画といった分野での協力を奨励します。

第一部 - 基準

1. 規模と環境

- ジオパークが世界ジオパークネットワークに加盟を希望するには、明瞭に定められた区画とその面積が十分あり、観光などを主とする地域経済や文化の発展に役立つことができる必要があります。規模の大小は問いませんが、世界的に重要と思われる地質遺産が数多くある、または科学的に特に重要だとか、非常に珍しい、あるいは美しい露頭などが公園内に点在し、それによってその地域の地史や地質現象、どのようにして形成されたかがよくわかるものであることが重要です。

- 「ジオパーク」とは、保護、教育、持続的発展という総合的な観点から地質遺産を扱うある地理的な地域ないし空間です。地域全体の地理的条件が考慮されていなければならない、単に地学的な重要なサイトを集めた、というだけではジオパークとは見なされません。地質学とは関係ないテーマでも、特に地形と地質の関係を利用者に示すことができる場合は、ジオパークに含めます。同じ理由で、生態学、考古学、歴史や文化面で価値あるサイトもジオパークに含める必要があります。多くの社会は自然史と文化史、社会史が密接に関連しており、切り離すことはできないのです。

- ジオパークとして申請する地域が、ユネスコの世界遺産リストや「人間と生物圏保護区」に登録された地域と同一であったり、一部あるいは全域が重複する場合、申請にあたっては事前に関係機関の承認を得る必要があります。

2. 運営および地域とのかかわり

- ジオパークとして承認されるには、しっかりした運営組織と運営計画を作り上げることが必要条件となります。見応えがあり地質学上世界的な意義を持つ露頭がある、というだけでは十分ではありません。ジオパーク内には地質学上の見どころを結ぶルートがあり、利用者が近づくことができ、公園として公式の管理下のもとで保護されていなくてはなりません。ジオパークの運営は、適切な運営施設や優秀な人材、十分な財政のある、特定の地方自治体あるいは複数の自治体が行います。

- ジオパークの設立はボトムアップ方式で行われます。ジオパークは、強力な複数のタスクフォース構想と長期にわたり公的な財政支援を行うという政治的意思、そして専門的な運営機構を前提としています。これにより、将来も社会経済文化的な発展を続けられるような政策を地域に取り入れることができます。地域との深い関わりを抜きにして成功はありません。地方の住民や自治体が運営計画の作成や実施に深く関わり、地域の景観を守りながら、彼らの経済的必要性を満たす、というのがジオパーク設立の構想です。ただし、ユネスコに申請する際には、ユネスコ国内委員会により政府レベルで承認される必要があります。

- ジオパークの組織は公的機関、地域社会、私的団体、および研究教育機関などから構成され、その企画運営や、地域の経済文化の発達計画や活動にあたることになるでしょう。こうした協力により議論が活発になり、その地域で既得権を持つさまざまなグループ間の連携をうながすこととなります。また、地方自治体や地域住民のやる気を起こし、行動へつなげることとなります。

- 地域社会との協力なしに、ジオパーク内で観光などの経済活動を継続することはできません。特に地域の条件、公園内の自然や文化的特色を考慮し、地元住民の伝統を最大限に尊重して観光活動を行わなければなりません。持続的な開発には、地域の文化的価値観の尊重、強化、保護が欠かせません。ジオパークの設立には、ほとんどの地域、国で先住民が参加することが必要となります。

- ジオパークプロジェクトを準備する段階で、ジオパーク事務局とその担当者に助言を仰いでください。さらに、地質調査所、地方自治体や観光協会、地域社会、大学や研究機関、私的団体などに協力を求め、ジオパークの立ち上げチームの構成に厚みを持たせてください。これらのグループは研究者や地域で保護活動や社会経済活動をしている団体の代表でなければなりません。地域での協議過程に地域住民を参加させることで、彼らがジオパーク計画を受け入れられるようにし、よく考え、理解して応募書類を作成できるようにしなくてはなりません。

3. 経済開発

- 1987年の「我ら共有の未来(Our Common Future)」の中で、環境と開発に関する世界委員会は持続可能な開発とは、「将来の世代が必要とするものを得る能力を損なうことなく、現在の世代が必要とするものを満たす開発」であると定義しています。

- ジオパークは、経済活動の活性化と持続可能な開発を主要戦略目標の一つとして掲げています。ジオパークの使命は、ユネスコの支援の下に文化的、環境的に持続可能な社会経済開発を育成することです。これにより人々の生活水準や農村の環境を向上させ、地域に直接の効果を与えます。地域住民がきちんと把握され、地域文化の復興が進み、それがさらに地質遺産の保護に役立ちます。

- 地域の文化遺産がさまざまな面で地質遺産と深くかかわっていることは、よくあることです。環境に配慮してジオパークをつくることで、ジオパーク内の地質資源を守りながら新たな収入の道(ジオツアー、地質に関連した製品など)が開け、それがさらに、たとえば地元で画期的な企業や中小企業、家内工業、良質な研修コース案や新たな仕事などを生み出します。地域住民の収入は増加し、民間資本を呼び込みます。「ジオツーリズム」は営利を目的とし、軌道に乗ることを目指す、変化の速いもので、さまざまな分野が密接に協力して創る新たな観光産業です。

4. 教育

- ジオパークは、博物館、自然観察・教育センター、自然散策路、ガイド付ツアー、軽い読み物や地図、最近の通信媒体などによって、地球科学の知識や環境の概念を社会に伝える手助け、手段、活動を提供し準備することをその責務としています。また、ジオパークを介して科学研究や、大学との協力、地球科学研究者と地域住民間の協力を促し、育みます。

- ジオツーリズムの成功を決めるのは、プログラムの内容や優秀なスタッフ、利用者へのさまざまなサポートだけではありません。地域住民やメディアの代表、政策担当者などに直接顔を合わせることも大切です。さまざまな分野が参加し、地域レベルで公園内ガイドを養成するなどの能力開発をすることで、社会全般にジオパークの理念が受け入れられ、知識や情報を伝えることができるようになります。何度も繰り返しますが、地域住民を最優先することがジオパークの設立運営を成功させる鍵なのです。

- 情報を伝える手段としては、学校の生徒や先生向けの校外学習、セミナー、あるいは環境問題や文化保存に関心を持つ人々や郷土の景色を観光客に紹介したいと考えている住民を対象とした科学講座などがあります。中でも重要なのは地域における地学教育で、これは地元の生徒に地質遺産の重要性を教えるものです。小中学校で郷土の地質、地形、自然地理について教えるカリキュラムを組むことで、ジオパークの保存に役立つだけでなく、郷土意識を喚起し、誇りを高め、自覚を促すようになります。ジオパークは地域だけでなく全国レベルにも応用できる重要な教材だといえるでしょう。

- 教育という面では、博物館や「発見学習センター」、ビジターセンター以外にも新しい方式を取り入れ、地質遺産の保存とはどういうことかとか、そのためには保護対策や記録保管が必要であることを広めてゆかなくてはなりません。このほか、利用者や地域関係者向けの教育プログラムを作る場合にも、こうした博物館やセンターを使うことができます。

- 教育活動はすべて、環境保護全般に関する倫理規定に則っていかなくてはなりません。

5. 保護と保存

- 地域や景観を保護する、という点ではジオパークは特に目新しいものではありませんが、完全に保護、規制されている国立公園や自然公園などとは全く異なります。ジオパークを担当する当局は、その地域の伝統と法規制に基づいてジオパーク内の地質遺産を確実に保護します。公園内の見どころや地質学的な露頭の保護をどの程度のレベルでどのように行うか決定するのは、ジオパークがある国の政府です。

- 国の法令や規制に従ってジオパークで保存することのできる露頭や地質学的な特色には、以下のようなものがあります

- 代表的な岩石
- 鉱石、鉱産物
- 鉱物
- 化石
- 地形と景観

地球科学に関する知識を展示する場合には、以下のような分野があります

- 固体地球科学
- 鉱床学、鉱業
- 土木地質学
- 地形学
- 氷河地質学
- 自然地理学
- 水文学
- 鉱物学
- 古生物学
- 岩石学
- 堆積学
- 土壌科学
- 洞窟学
- 層位学
- 構造地質学
- 火山学

ジオパークはこうした地質遺産を保存するにはどうするのが最もよいかを模索し、実証します。

- ジオパークの運営機関は関連する公的機関と協議しながら、適切な保護対策と実効的な保存を確実にを行い、必要であれば維持のための対策を実施します。これら地質遺産の管轄権はそのジオパークがある国に帰属します。地域や露頭などの保護方法については、法令に従ってその国の責任で決めてください。

- ジオパークは地質遺産の保護に関する条例や国内法令を尊重しなくてはなりません。地質遺産の一部を販売する行為は「持続可能である」とはいえないので、ジオパークの運営機関はこれを強く阻止しなくてはなりません。場合によっては、科学的あるいは教育的な目的で、自然回復が可能な地点から限られた地質標本を（「持続可能的に」）採取することは許可すべきです。地球の遺産である鉱物や化石標本を販売するという近視眼的な方法に比べれば、こうした「持続可能な」やり方のほうがはるかに大きな経済効果を生むことが実証できるでしょう。

6. 世界的ネットワーク

- 世界ジオパークネットワークは、地質遺産にたずさわる専門家や担当者に、互いの協力と情報交換の場を提供するものです。ユネスコの保護の下で世界的なネットワークを通じて協力することにより、地域や国内だけで重要とされていた地質学上の場所が世界中に知れ渡り、他のジオパークと知識や技術、経験、職員を交換するというメリットが得られます。ユネスコが展開する国際的なこの連携は一地域内の構想に比べて、世界的ネットワークのメンバー国となるこ

とから生じる便宜や利点をもたらしてくれます。それは、他のメンバーの経験に学ぶことができる、という利点です。

- このネットワークは世界のあらゆる地域を網羅し、明確な手順と取り扱いにもとづいて、似たような価値観、関心、バックグラウンドを持つグループをとりまとめます。また、こうすればうまくゆく、という事例モデルを作り、地質遺産を保存しつつ地域の持続的経済開発策をすすめる区域の開発基準を定めます。ジオパークを設立し、保全と平行して持続可能な開発を追求して、環境に配慮したツアーや経済的文化的活動を推進することにより、地域住民は、地域の環境を維持しながら経済的な恩恵を受けることができます。

世界ネットワークの一員として、ジオパークは、

- 1) 現在の、そして将来の世代のために地質遺産を守ります
- 2) 地球科学とは何か、そしてそれが環境問題とどう関わっているか、広く社会の理解を深め、教えます
- 3) 社会、経済、文化の持続的発展を確かなものにします
- 4) 一般の人々に参加してもらい、多くの組織の共同体という形をとることで、地質遺産と保存そして地質と文化の多様性の維持の間に多文化という橋をかけます
- 5) 必要に応じて研究を促進します。
- 6) 相互の連絡、出版物、情報交換、姉妹機関の締結、会議への参加など連携をとり、ネットワークを積極的に活性化させます

- ユネスコはジオパーク構想を押し進め、とりわけ、地球科学が政府や地方関係機関の政治家や行政責任者の政策に反映され、そして民間企業の視野にも影響を与えるようにしようとしています。ジオパークに関して数多くの活動が生み出されており、主として観光分野で民間企業との連携が進んでいます。民間企業は往々にして国際的な協力枠組みを要求するものですが、これはユネスコが提供できます。ユネスコを介することで、各国政府の関心は確実に高まります。ユネスコという組織は加盟国の大使を通じて世界中に情報を伝え、強力に認識を高めることができるのです。これだけで、ユネスコネットワークに参加を希望する地域構想ははるかに広く理解され、より多くの支援を受けることとなります。

- 世界ジオパークネットワークへの加入は、あくまでもそれが地質遺産として素晴らしいという認証であって、ユネスコに法的財政的責任が生じるものではありません。またユネスコの名称とロゴの使用についても、ユネスコの後援に関する規制に従って、特別な許可が必要です。ネットワークのメンバーとして承認されると、ネットワーク用の特別ロゴが作成されます。申請書が良い評価を受け、事務局から正式な認定書を受け取るまでは、このロゴを用いたり、世界ネットワークのメンバーの一員であると公表できませんのでご注意ください。

- ネットワークのメンバーがその活動や行事でユネスコのロゴや名称を使用したいと希望する場合、自国のユネスコ国内委員会を通すか、あるいは事務局長の特別許可により後援を得ることができますが、その場合には事前に文書で明確に承認を受けなくてはなりません。ジオパークを運営する機関はこの点に関し、全員に誤解のないよう責任を持って周知してください。(ユネスコの名称、略語、ロゴ、ホームページのドメイン名の使用に関する指示は下記のジオパーク事務局を通じて入手することができます)

第二部 – 認証手続 – ネットワークに加入するにはどうすればよいか

バランスの取れた地理的配置を確保するために、一つの国から一度に応募できるジオパークの数は二つまでとします。まだ世界ジオパークネットワークに加盟していない国、初めて応募する国は3つのジオパークを一度に応募できます。

1. ヨーロッパ以外の国

- ジオパークとしてユネスコの支援を受ける場合には、ユネスコの生態・地球科学部門、全地球観測課にご連絡ください

Geoparks Secretariat
Global Earth Observation Section
Division of Ecological and Earth Sciences (SC/EES)
UNESCO
1, rue Miollis
75732 Paris Cedex 15
France

電話: +33 (0) 1 45 68 41 18
ファクス: + 33 (0) 1 45 68 58 22
e-メール: m.patzak@unesco.org
www.unesco.org/science/earth

- 応募書類は英語またはフランス語で記入し、印刷したものと CD-ROM 各3部を提出してください。本文は30ページ以内とします。応募書類にはジオパークの運営と開発に関わっている管理団体と政府官庁が正規に署名し、当該加盟国のユネスコ国内委員会により承認を受けること。

- 応募書類には以下の項目について、長所と短所を明記した書類を添付のこと

1. 地域の確認
2. 科学上の記載 (国際的重要度, 地質的な多様性, 露頭の数, など)
3. 申請地域の一般情報
 - 地理的な背景, 経済的状况
 - 人口, 施設, 雇用
 - 自然の景観, 気候, 生物, 生息域
 - 人間の活動, 文化遺産, 考古学
4. 運営計画と組織
5. 持続可能な開発政策の戦略とこれに関連するジオツーリズムの重要性 (地域開発の行動計画)
6. 世界ジオパークネットワークに加入し, ジオパークに立候補する背景と理由の説明

署名欄:

7. 応募書類に添付の意志表明書
8. 所轄官庁が署名した公式の応募用紙
9. ジオパークがある国のユネスコ国内委員会の承認
- 9.1. それぞれの国のジオパークネットワークの承認 (国内にある場合のみ)
10. 添付書類 (ジオパークの詳細についての自己評価用紙)

- ユネスコのジオパーク事務局担当者は応募書類と添付資料を確認し、不十分な場合には応募者に対し追加資料の提出を求めることがあります。応募は年間いつでも受け付けています。その後、第三者による事務局が書類を審査し、応募のあったジオパークについて加入を推薦します。年に少なくとも一度開かれる、直近のジオパーク事務局会議で加入の可否が決定されます。以上の審査には少なくとも6ヶ月を要します。審査の過程で良い評価が下されたジオパークが世界ジオパークネットワークへの参加を認められます。判定結果については、ユネスコから応募者とその国のユネスコ国内委員会宛に通知します。

- 助言や評価を受けるため専門家が現地を視察する場合、その旅費、宿泊費、現地交通費は、ジオパークが所在する国、あるいは応募に携わった団体または部署の負担とします。

- すでに「国内ジオパークネットワーク」がある場合には、まず国内ネットワークに加入してからユネスコに加入の応募用紙を提出すること。これについては必ず承認書を添えてください。
- 新規に加入を希望する場合には、応募の準備のため、ネットワークからアドバイザーを招くことができますが、それに掛かる費用は招待側の負担とします。

2. ヨーロッパ諸国

- ヨーロッパにあるジオパークが世界ジオパークネットワークに加入を希望する場合は、欧州ジオパークネットワーク(EGN)の調整室宛にすべての応募書類を提出してください。EGNはヨーロッパ地域を対象として、世界ジオパークネットワークへの登録を取りまとめる機関です。ユネスコの世界ジオパークネットワークと欧州ジオパークネットワークは同じ概念のもとに、平行して作られた組織です。したがってヨーロッパ諸国が世界ジオパークネットワークに応募する場合は、EGNを通して手続きが行われます。ユネスコはEGNの常任諮問委員と専門委員を務めており、応募の評価から採否決定にいたるすべての段階に関与します。
- この点についてユネスコとEGNは2つの合意文書、「ユネスコ地球科学局および欧州ジオパークネットワーク間の協力合意」(2001年、スペイン アルメリア)と「マドニー宣言」(2004年、イタリア マドニー)に署名をしています。
- EGNは2000年6月、4つのジオパークにより設立されました。その目的は、地質遺産の保護と地域の持続的開発を推進に加え、持続可能な開発を専門に扱う強力な地域組織をヨーロッパに作り、共通の欧州プログラムを新たに準備、協議することです。2005年にはメンバーは25に達し、現在では世界ジオパークネットワークの一部になっています。
- ヨーロッパのジオパーク候補地は、下記の欧州ジオパークネットワークの調整室宛に応募書類を提出してください。ここでは、最新の情報や助言も得られます。

Coordination Unit
European Geoparks Network
Réserve Géologique de Haute-Provence
BP 156
F-04005 Digne-les-Bains cedex
France
電話: +33 (0) 4 92 36 70 72
ファクス: +33 (0) 4 92 36 70 71
連絡先: Mrs. Sylvie Giraud
E メール: s.giraud@resgeol04.org
www.europeangeoparks.org

3. 報告と定期再審査

- 2006年以降にメンバーとなったジオパークについては、4年以内にジオパークの管理運営状況の再審査を定期的に行います。これは、関連する指定機関と応募書類にサインした各機関によって作成された進捗状況報告書に基づいて行われ、ユネスコ国内委員会からユネスコに報告されます。
- この報告書に基づき、ジオパークの指定後、あるいは前回の再審査後もジオパークの状況や運営が満足できるものである、とユネスコの第三者専門家グループが判断した場合は、正式に承認され、その後も世界ジオパークネットワークの一員として認められます。
- もし、世界ジオパークネットワークの最新ガイドラインの基準を満たしていないと判断された場合には、ジオパークに関わる指定機関に対し基準を満たし維持するために何らかの手段をとるよう勧告が行われます。その後2年以内に基準を満たすことができない場合には、そのジオパークは世界ジオパークネットワークのリストから外され、世界ジオパークネットワークのロゴの使用を含む、メンバーとしての権利をすべて剥奪されます。

- ユネスコは指定機関およびユネスコ国内委員会に対し、定期再審査の結果を通知するものとします。
- ジオパークとその所在国が認定を解消したいと望む場合は、ユネスコ国内委員会を通してジオパーク事務局に、その理由を添えて通知するものとします。
- 公園面積やの変更など、ジオパークの状況に何らかの変更があった場合、世界ジオパークネットワークメンバーは正式に申請する必要があります。現存のジオパークの面積変更とそのジオパーク事務局による承認は常時可能です。新たに指定された地域でのロゴの使用も、これに含まれます。
- 世界ジオパークネットワークに指定されると、当該のジオパーク管理者は適宜宣伝や広報活動を行う必要があります。また、公園の現況や開発について定期的にユネスコに通知しなくてはなりません。また、姉妹公園関係の締結や開園式などの行事、報道や世界にむけて簡単に周知可能なインターネットなどを使い、これらの行事を宣伝する場合も同様です。

ジオパークの自己評価 と進捗状況評価用紙

添付書類 (2006年4月)

国際国立ジオパークネットワークに加入するために ユネスコからの支援を申請する国立ジオパークの 自己評価と進捗状況評価用紙 (申請者用)



この用紙に記入いただいた内容はユネスコの専門家グループに提供され、申請地域の概要を把握するための資料とされます。用紙はAとBの2種類あります。

A) 地域の説明

- 事務手続上の欄(申請者の情報, 署名, 概要)
- 地域の確認
 - I. 地質と景観
 - II. 管理組織
 - III. 情報と環境教育
 - IV. ジオツーリズム
 - V. 地域経済の持続性

B) ジオパーク進捗状況評価

1. 欧州ジオパークネットワークとの関係
2. 管理組織と財政状態
3. 地質遺産保存に向けた戦略
4. 戦略的パートナーシップ
5. マーケティングと宣伝
6. 地域産業の将来性

A) 地域の説明

申請者

1. 申請者(機関)の名称

--

2. 申請者(機関)の住所

地域:	
国:	
電話:	
ファクス:	
Eメール:	

3. 申請地域の面積 (km²)

--

4. 連絡先

地球科学関係者	
地域開発担当者	
ジオパーク責任者/運営責任者	

5. 国際ジオパークネットワークのガイドラインにある目標と原則に同意していただける場合、署名をお願いします

氏名	職務上の肩書	日付
署名		
氏名	職務上の肩書	日付
署名		

書類 A: 評価用	申請者の自己採点	審査員の評価
満点を 100%とした%h 表示で		
		氏名:

申請の概要

	カテゴリー	重み係数 (%)	申請者の自己採点	審査員の評価
I	地質と景観			
1.1	地域	5		
1.2	地質遺産の保存	20		
1.3	自然文化遺産	10		
II.	運営組織	25		
III	情報や環境教育	15		
IV	ジオツアー	15		
V	地域経済の将来性	10		
合計		100		

申請する場合の注意

- 本申請書内で申請者が推薦した点すべてに対し、それを裏付ける文書を添付してください
- 新規申請の評価が100%になることは期待されていません。ただし、すべての判定分野において、50%以上の評価がなされていない場合は、申請することができません

I. 地質と景観		点数	自己採点
1.1 地域			
候補地の環境			
1.1.2 地域内にある地質学的意義をもつ“ジオサイト”の数			
	20ヶ所以上	80	
	40ヶ所以上	140	
一般向けの説明があるサイトの数(探索路, 説明板, パンフレットなど)			
	5-10ヶ所	40	
	10-20ヶ所	80	
	20ヶ所以上	120	
科学的に重要なサイト	25%以上	40	
教育用のサイト	25%以上	40	
ジオツアー用のサイト	25%以上	40	
地質的要素のないサイト		20	
	得点の上限	400	
1.1.3 既存のジオパークとの関係 (次の中から一つを選んでください)			
既存のジオパークに比べ, はるかに優れている		300	
同じ大陸に, 同程度の地質学的意義や設備をもつジオパークがある		260	
国内に, 同程度の地質学的意義や設備をもつジオパークがある		210	
国内の同じ地方に, 同程度の地質学的意義や設備をもつジオパークがある		150	
地質学的に同じである付近の地域に, 同程度の地質学的意義や設備をもつジオパークがある場合, そこの距離が,	200 km 以上	100	
	200 km 以内	60	
	得点の上限	300	

「地域」の小計	得点の上限	自己採点
	700	

1.2. 地質遺産の保護	点数	自己採点
1.2.1 地質多様性		
申請地域には、地質年代区分上のいくつかの「紀」が地質体として見られますか(各5点で、最大50点まで)	50	
申請地域には、いくつかのはっきりと異なった岩石が見られますか(各10点で、最大50点まで)	50	
申請地域には、地質学的、地形学的にはっきりした特徴がいくつありますか(各10点で、最大100点まで)	100	
得点の上限	200	
1.2.2 申請地域には、どのようなタイプのジオサイトがありますか(自己採点合計は400点を越えることはできません)。		
世界的に重要なジオサイトが1ヶ所以上ある	160	
地質学的、地形学的に異なる種類のジオサイトが3ヶ所以上ある	120	
国内で重要なジオサイトが5ヶ所以上ある	120	
教育的意義があり、学校教育や大学で利用できるジオサイトが20ヶ所以上ある	150	
ジオサイトのデータベースはありますか	90	
ジオサイトを示した地図はありますか	60	
得点の上限	400	
1.2.3 地質学的サイトやその特徴の損傷を予防する対策(1つだけ選んでください)		
申請地域全体を対象とする法的規制がある	300	
科学的に重要な地域内の一部区域が、法令による保護区として保護されている	120	
地質遺産の破壊や持ち去りが禁止されている	150	
申請地域の少なくとも半分以上の区域が、保護区または協定により保護されている	90	
得点の上限	300	
1.2.4 ジオサイトの損傷や不正な利用を予防するために、何をしますか		
損傷や不正利用を取り締まる法令を告示する	40	
損傷や不正利用を取り締まる法令を、各サイトに掲示する	40	
監視所を設置し、監視員による監視や巡回を行う	60	
法令実施の措置を行う(採掘や採取の禁止など)	40	
区域を定め、指導員のもとの地質標本採取を許可する	20	
得点の上限	200	
1.2.5 ジオサイトとそれに関わる施設を損傷や自然劣化などから保護するために、どのような手段を考えていますか		
定期的なメンテナンスと清掃	60	
保存対策	70	
保護対策(自然劣化防止用の処理、シーリングなど)	70	
得点の上限		

「地質面の保護」の小計	得点の上限	自己採点
	1300	

1.3 自然遺産,文化遺産	点数	自己採点
1.3.1 自然に関するランク(自己採点合計は 300 点を越えることはできません)		
ジオパーク地域内に世界遺産または人間と生物圏計画に基づく保存地域がある	300	
ジオパーク地域内に上記以外の国際的な指定を受けた地域がある	240	
ジオパーク地域内に国の指定地域がある	180	
ジオパーク地域内に地方(県)の指定地域がある	120	
ジオパーク地域内に市町村の指定地域がある	60	
得点の上限	300	
1.3.2 文化面でのランク(自己採点合計は 300 点を越えることはできません)		
ジオパーク地域内に世界遺産または人間と生物圏計画に基づく保存地域がある	300	
ジオパーク地域内に上記以外の国際的な指定地域がある	240	
ジオパーク地域内に国の指定地域がある	180	
ジオパーク地域内に地方(県)の指定地域がある	120	
ジオパーク地域内に市町村の指定地域がある	60	
得点の上限	300	
1.3.3 自然遺産,文化遺産の利用促進		
定期的なメンテナンス	40	
解説と教育	80	
コミュニケーション	80	
保存	80	
一般社会への宣伝	120	
得点の上限	400	

「自然遺産,文化遺産」の小計	得点の上限	自己採点
	1000	

「地質と景観」の項の合計点	得点の上限	自己採点
	3000	

II. 管理組織	点数	自己採点
2.1 組織の運営はどのように行われますか		
責任の範囲と分担が明確に定められている	40	
効率的な組織で持続性ある開発と保護の促進を行う	40	
予算は独自に管理される	20	
得点の上限	100	
2.2 運営計画や基本計画は出来上がっていますか(自己採点合計は 140 点を越えることはできません)		
ある(過去10年以内に作成されたもの)	40	
準備中(今後2年以内に完成予定)	20	
2.3 基本計画の項目		
計画が出来上がっている場合、そこにはどのような項目が含まれていますか(項目を5つあげ、それぞれについて資料を添付してください)	20	
計画が出来ていない場合、これまでにどのような項目が出されましたか(項目を5つあげ、それぞれについて資料を添付してください)	10	
管理運営面の長所と弱点が分析されている	20	
地質面その他の「資産」について監査がされている	20	
次の項目に関する長所と弱点の分析がなされている		
地質	5	
景観保護	5	
観光事業としてのジオツーリズム	5	
農業と林業	5	
地域開発(県/市町村単位)の可能性について分析がなされている	10	
重要な分野(地質学的特徴, ジオツーリズムなど)に対する開発の明確な目標がある	10	
持続可能な開発のモデルがある	10	
得点の上限	140	
2.4 3年, ないし5年の実行計画がありますか		
実行計画があり, 遂行中	40	
準備中(2年以内に完成のこと)	20	
得点の上限	40	
2.5 マーケティング戦略がありますか(自己採点合計は 100 点を越えることはできません)		
ある(過去10年以内に作成されたもの)	50	
準備中(2年以内に完成のこと)	20	
2.5.1. あると答えた場合, どのような項目が含まれていますか		
市場調査	10	
製品の開発	10	
製品の販売組織	10	
観光事業の市場戦略	10	
コミュニケーション戦略	10	
2.5.2. ないと答えた場合, これまでにどのような項目が個々に出されましたか		
市場調査	5	
製品の開発	5	
製品の販売組織	5	
観光事業の市場戦略	5	
コミュニケーション戦略	5	
得点の上限	100	

2.6 ジオパークでは地質遺産を保護し、持続性のあるジオツーリズムを立ち上げる義務があります。このために、これまでどのようなことがなされてきましたか			
観光事業開発の目玉となる区域の画定		25	
観光事業を導入しない地域の画定(保護・研究対象区域)		20	
交通の規制と削減のための対策(通行規制, 集中駐車場, 交通誘導システム, 標識など)		15	
環境にやさしい散策路システム		10	
自転車, あるいは馬や船などによる探索路の整備		10	
2.7 自然文化遺産の宣伝を検討するイニシアチブや作業部会がありますか			
特定のテーマで作業部会が定期的に会合している		20	
申請者, 観光協会, その他の利害関係者間で, 個々の協力や協定がある		10	
上記以外の定期的な活動がある		10	
	得点の上限	120	
2.8 申請地域は過去5年間に, 地質的多様性, 保護や持続性のあるジオツアーに関する活動で, 何らかの賞や公的な認定を受けたことがありますか (自己採点合計は 100 点を越えることはできません)			
国際的な賞 (名称と受賞の日付)		80	
国内の賞 (名称と受賞の日付)		40	
持続性のある観光事業として欧州から認証されている		50	
欧州理事会により European diploma に指定されている		50	
その他 (例: 産業界から, など) (名称と受賞の日付)		20	
	得点の上限	100	
2.9 科学的根拠に立ち, 研究を進めることのできる優秀な地質学者あるいは科学の専門家がいますか (自己採点合計は 140 点を越えることはできません)			
現役の地球科学研究者1人以上が顧問となっている		10	
あるいは			
地球科学または関連分野の学位を持つ常勤職員が1人以上いる		20	
地球科学または関連分野の学位を持つスタッフが, 申請機関の職員として5人以上いる		10	
それに加えて, 上記以外を専門とする常勤職員がいる (例: 生物学など)		10	
1つ以上の科学研究機関(大学, 国の地質調査所など)と定期的かつ公的に共同活動を行っている		15	
ふだん, 誰から助言を受けていますか			
地球科学研究の経験を持つ人		15	
地球科学分野の経験を持つ人		10	
アマチュア		5	
専門家のネットワークがある		10	
そのネットワークにはいくつの専門分野から参加者がいますか			
	5 分野以下	5	
	5 分野以上	10	
マーケティングの専門家はいますか. いない場合, 担当者は誰ですか		5	
広報部はありますか. ない場合, 担当者は誰ですか		5	
プロダクトマネージャーはいますか. いない場合, 担当者は誰ですか		5	
野外ツアーやガイド付散策の案内ができるスタッフがほかにもいますか		5	
事務担当職員はいますか		5	
博物館職員はいますか		5	

	得点の上限	140	
2.10 申請地域には次の施設がありますか			
地域内に申請機関やその協力者が運営する博物館		80	
地域内にインフォメーションセンター		60	
地域内に、申請者、申請者の目的と職務などを伝える「情報キオスク」か地域の情報拠点		40	
地域内に案内板		20	
地域内に申請者が整備したあるいは整備に関わった地質探索路がある		40	
	得点の上限	240	

「管理組織」項目の小計	得点の上限	Self Assessment
	940	

III. 情報と環境教育	点数	自己採点
3.1 地域内における研究, 情報, 教育などの科学活動		
地域内で活動する科学ないし学術研究機関が1つ以上ある	40	
少なくとも1年に1件, 卒論や修論(地質図作成など)の対象となる	20	
過去3年間で1件以上, 申請地域に関する学位論文が発表されている	40	
過去5年間で5件以上, 科学的な, あるいは観光事業に関する申請地域の学術論文が発表されている	40	
得点の上限	140	
3.2 申請の地域内で, 環境教育プログラムを行っていますか		
申請機関の常勤職員に, チーム内で主にこうした業務を行う環境教育の専門家 がいますか	50	
何らかの公的な教育プログラムを実施していますか(どのようなプログラムか, 簡単に説明してください)	30	
他機関(博物館など)が実施する公的な教育プログラムのいずれに関わって いますか	20	
1人でも参加できる子供用プログラムがありますか	20	
小学生向けのプログラムを行っていますか	20	
中学・高校生向けのプログラムを行っていますか	20	
大学生向けのプログラムを行っていますか	20	
申請地域に大学のキャンパスか教育センターがありますか	20	
得点の上限	200	
3.3. どのような教材がありますか (自己採点合計は 120 点を越えること はできません)		
教室での新教材を開発しましたか	20	
映画, ビデオ, スライドなど	20	
双方向性教材/ インターネット	20	
特別展示を定期的に更新	20	
特殊な教育用具 (パズル, 特殊な道具など)	20	
その他, 8歳以下の子供を対象とした教材を製作しましたか	20	
得点の上限	120	
3.4 申請地域に関する出版物はありますか		
地質遺産の保護に関するもの	15	
地域の地史に関するもの	15	
地域での環境にやさしい行動に関するもの	15	
地域内で観察できるものを上記以外の博物学的視点から見たもの	15	
歴史に関するもの	10	
得点の上限	70	
3.5 知的関心を集めるための活動として, どのようなことを行っています か		
印刷物 (パンフレット, 雑誌など)	25	
一般向けの読み物 (書籍, ガイドブック)	15	
CDやビデオ	15	
その他の宣伝用素材, 製品	15	
得点の上限	70	
3.6 宣伝用製品は何ヶ国語で製作されていますか (自己採点合計は 80 点を越えることはできません)		

英語	10	
フランス語	10	
スペイン語	10	
ロシア語	10	
中国語	10	
アラビア語	10	
複数言語での出版	10	
1言語ごとに10ポイントを加えてください		
	得点の上限	80
3.7 団体旅行など、集団での生徒・学生向け地質学教育の対策がありますか(自己採点合計は90点を越えることはできません)		
申請機関あるいは協力機関の職員によるガイド付ツアー	30	
すべての利用者向けに日常的に行われている標準プログラム	10	
人数を限定する(ガイド1名あたり30名まで、など)	10	
天候などの理由でツアーが実施できない場合の代替案は用意されていますか	10	
年令別のプログラムが用意されていますか	20	
科学の特別プログラムは用意されていますか	20	
申請地域に関する教員向けの研修は用意されていますか	20	
	得点の上限	90
3.8 教育 – ガイド		
専門の顧問として現役の地球科学者が1人以上いる	10	
申請機関がその立ち上げに関わったガイド付ツアーの案内ができる専門家が1人以上いる	20	
(グループでなく)個人を案内するガイド	10	
申請機関がトレーニングとプログラムを支援するフリーランスのガイドがいる	10	
研修コース	10	
	得点の上限	60
3.9 学校関係者による申請地域の利用の促進のために、どのような情報を送りたいと考えていますか		
学校や大学に手紙を出す	20	
パンフレット	20	
マスコミへの発表(新聞, ラジオ, テレビ)	20	
申請者が発行する定期刊行物(新聞, ニュースレターなど)	20	
	得点の上限	80
3.10 学校用のプログラムとしてインターネットを利用しますか、どのようなサービスを提供しますか		
申請地域に関する環境教育などの一般情報を載せたウェブサイトを作成	40	
教育プログラムに対する対応はEメールで行う	20	
ニュースレターを定期的にEメールで配信	15	
最新の活動カレンダー	15	
	得点の上限	90

「情報と環境教育」項目の小計	得点の上限	自己採点
	1000	

IV. ジオツーリズム	点数	自己採点
4.1 インフォメーションセンターや地域情報の展示が、申請地域内にありますか (自己採点合計は 100 点を越えることはできません)		
申請機関ないしその協力機関が運営するインフォメーションセンターが地域内に 1ヶ所以上ある	30	
現時点でセンターはないが、申請機関が他の施設(博物館など)で展示を行っている	10	
申請機関ないしその協力機関が運営する情報拠点やそれに準じる施設が地域内にある	20	
巡検時に説明をしたり集合場所となるインフォメーションセンターがある	10	
インフォメーションセンターでは車椅子の利用が可能ですか、また他の障害者にも対応できますか	10	
参加可能な地域内での活動情報は、利用者に個々に提供されますか	10	
センターには観光案内所がありますか	10	
センターは公共交通機関を使って行くことが可能ですか	10	
センターは年間を通して週6日以上開館しますか(悪天候の場合を除く)	10	
得点の上限	100	
4.2. インフォメーションセンターやポイントでは、情報や説明をどのように掲示しますか		
ふいつの掲示板・パネル	10	
映画、ビデオ、スライドショーなど	10	
双方向ディスプレイ	10	
定期的に変更される特別展示	40	
得点の上限	70	
4.3 交通の便と設備		
申請地域には公共交通機関を使って行くことが可能ですか	200	
独自の輸送手段を考えていますか	100	
徒歩や自転車用の探索路は公共交通を使って行くことが可能ですか	100	
申請機関が設けた探索路入口には駐車場設備がありますか	100	
駐車場には便所がありますか	50	
得点の上限	550	
4.4 公共交通をつかって来園するよう、利用者に呼びかけますか		
申請地域の宣伝用チラシ、パンフレットやホームページなどに、公共交通の情報を載せる	20	
交通機関の時刻表などの情報が掲載されたホームページに対して、申請地域や観光団体のホームページからリンクをはる	20	
公共交通、自転車など環境にやさしい方法で来園した人には、特別サービスを提供する	20	
得点の上限	60	
4.5 申請機関やその協力機関が作成したガイド付ツアーとして、どのようなものがありますか		
地質学や地形学に興味のあるグループ向けツアー	10	
シーズン中定期的に行われるツアー	10	
幅広い参加者を対象としたツアー	20	
障害者用ツアーはありますか	10	
資格をもつガイドによるツアー	10	
グループの人数を制限(ガイド1名あたり30名まで、など)	10	
天候などの理由でツアーが中止になった場合の代替案	10	
参加者に融通の利く予約システム(当日受付可など)や予約不要であるか	10	
得点の上限	90	

4.6 利用者に申請地域を理解してもらうため、他に何を考えていますか		
公園入口付近や観光地などに読みやすい説明板を掲示する	50	
申請機関ないし協力機関によって整備された地質をテーマにした探索路が1つ以上ある	40	
探索路沿いの説明板は定期的に点検・清掃されている	10	
得点の上限	100	
4.7 他機関との間で、情報や活動調整をどのように行いますか		
情報や宣伝用品を共用する	20	
得点の上限	20	
4.8 案内用の資料などは他に何がありますか(5年以内に作成されたもの)		
パンフレット	10	
季節ごとに変わるチラシ	15	
申請地域について書かれた書籍など	15	
映画、ビデオ、CD、DVDなど	15	
宣伝用の冊子	15	
インターネットメディア	15	
その他	15	
得点の上限	100	
4.9 インターネットを利用しますか、またその場合、どのようなサービスを提供しますか		
地域についての情報を載せたホームページを作る	40	
観光協会、地域住民、地方自治体などのホームページにリンクをはり、申請地域のさまざまな情報が得られるようにする	10	
ジオパーク管理者にEメールで連絡が取れる	5	
ニュースレターを定期的にメールで配信	10	
出版物の注文をオンラインで受ける	10	
最新の活動カレンダー	15	
来訪者が参加できるツアーなどの案内	10	
得点の上限	100	
4.10 乗馬、カヌー、サイクリング等の活動施設には、どのようなものがありますか		
観光や科学的に興味深い地点を結ぶ徒歩探索路網	10	
一定の基準で道標が探索路全体に整備されている	10	
施設等は定期的に点検し、确实迅速に補修を行う	10	
ハイキングやサイクリング用の情報を載せた地図がある	10	
これまでの設問で点数に加えなかった、特定のテーマ(鉱山、考古学、建築など)に関する探索路がある	10	
ガイド付の自転車や徒歩などによるツアーがある、または協力機関が対応している	10	
ハイキングやサイクリング用の数日間のパッケージツアー(食事と宿泊込み)がある、または協力機関が対応している	10	
手荷物搬送付の複数日間のパッケージツアー(食事と宿泊込み)がある、または協力機関が対応している	10	
ハイキングやサイクリングに理解のあるホテルやペンションが地域内にいくつかあり、申請機関と連携する機関の基準に合致している	20	
得点の上限	100	
4.11 ジオツーリズムをどう実現しますか。ツアーの実際の担当者(社)にどうやってよい連携を持ちますか。		
直接個人的に、あるいは組織を通じて会う	10	
よい実例を奨励するために定期的に表彰を行う	20	
公式な協力者/助言者/スポンサーを選ぶ、あるいは指名する	20	
得点の上限	50	

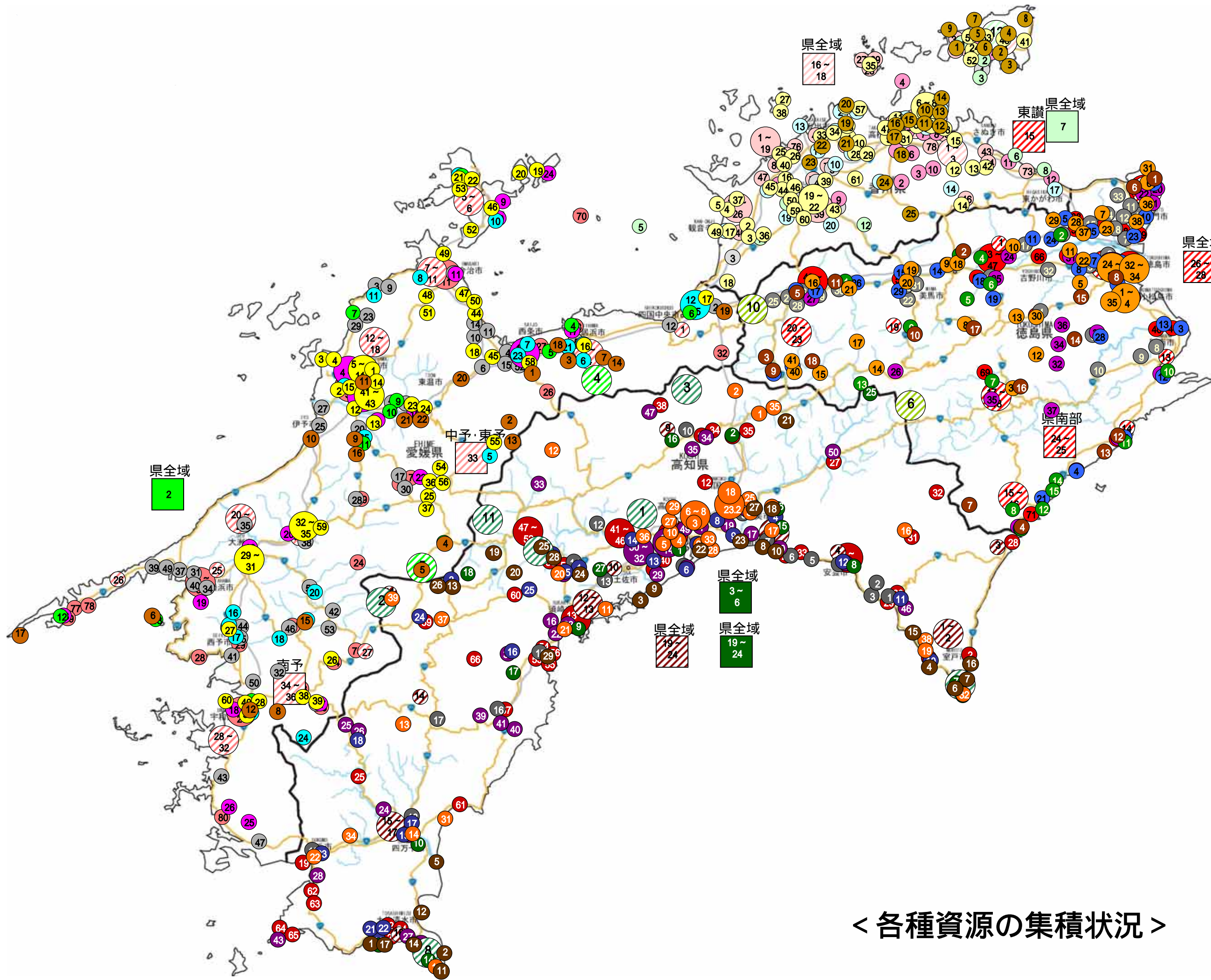
4.12 持続可能な手段で(車を使わない, など)楽しめる次のような探索路はありますか		
地質の探索路	20	
文化の探索路	10	
森の探索路	10	
その他の探索路	10	
これまでに書かれていないその他の野外活動	10	
得点の上限	60	
4.13 利用者の見積り		
利用者数をどのように把握しますか	25	
入場券 / 利用者カウンター		
ツアーの参加者数		
推定		
来訪者の調査		
利用者がどこから来たかを調べますか	25	
予約時の住所		
市場調査		
大学の研究		
今後の計画にこうした利用者調査を用いますか	25	
利用者の社会経済プロフィール(家族構成, 学年, 年金受給者か, 団体旅行か, など)について分析を行いますか	10	
利用者の満足度調査を行いますか	15	
得点の上限	100	

「ジオツアー」項目の小計	得点の上限	自己採点
	1400	

V. 地域経済の将来性	点数	自己採点
5.1 地場の食材や工芸品の仕出などへの利用を推進するため、どのような工夫を考えていますか		
申請機関が開発あるいは積極的に支援した地元の食材や環境にやさしい製品などを推進している	50	
地元の食材や環境にやさしい製品を利用するレストランがある	30	
申請機関が地域の農産品販売所を作っている	50	
独自ブランドの地元の食材や、独自の料理がある	30	
地域の農産品の直売を推進している	40	
得点の上限	200	
5.2. ジオツーリズムの土産品などを地元で開発・推進するため、どのような工夫を考えていますか（自己採点合計は100点を越えることはできません）		
地質・化石模型などの制作を推進する計画がある	50	
模型などの土産品が地元で製作されている	30	
申請機関やその協力機関に地元の製品を中心に扱う販売所や店がある	50	
得点の上限	100	
5.3. 地域の手工芸品などの活性化をどのように進めますか		
地域の手工芸品の販売を積極的に支援している	40	
地域の手工芸品の展示ケースがある	40	
得点の上限	80	
5.4 申請者が地場産業との結びつきを進めるため、どのようなことを考えていますか		
申請機関が単独または他機関と協力して開発した地元製品やサービスに独自ブランドがある	40	
申請機関が中心となって、地元製品の直売を推進している	20	
地元産業と協力したツアーを観光業者が提供している	20	
得点の上限	80	
5.6 申請の地域で、地場産業と通常どのような協定を結んでいますか		
修繕、管理などのサービス	40	
デザインや印刷	40	
ジオツアーやその説明に必要なそれ以外の備品やサービス(運送、展示ケースなど)	40	
得点の上限	120	
5.7 ネットワーク		
申請機関が援助する協力企業のネットワークがある	40	
申請機関とその協力者との間に正規の契約がある	30	
申請機関、企業、地方自治体間で出資する共同プロジェクトがある	50	
得点の上限	120	

「地域経済の将来性」項目の小計	得点の上限	自己採点
	700	

各種資源の集積状況

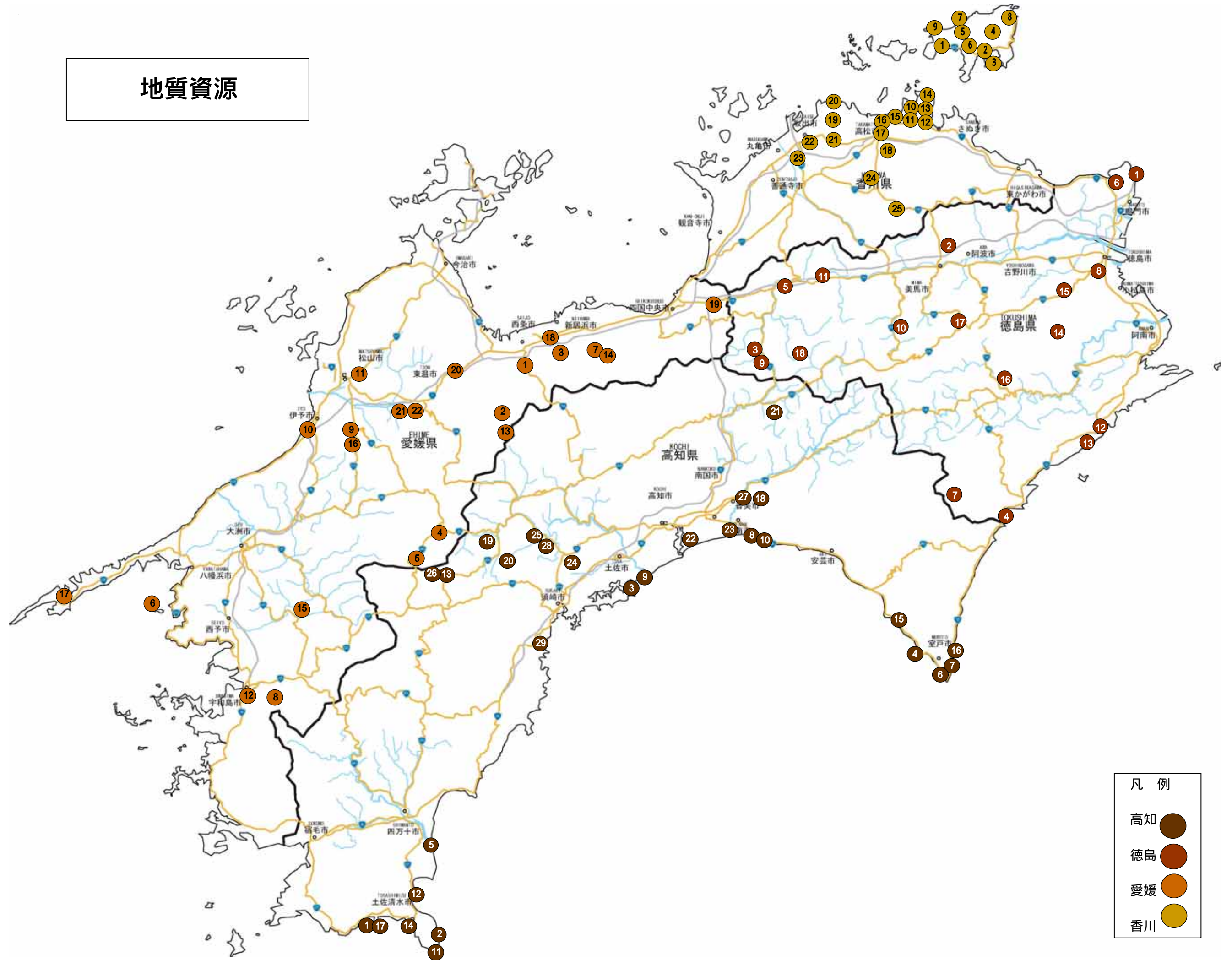


高知	高知	高知	高知	高知	高知	高知	高知	高知	高知
徳島	徳島	徳島	徳島	徳島	徳島	徳島	徳島	徳島	徳島
愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛
香川	香川	香川	香川	香川	香川	香川	香川	香川	香川
食	食文化	酒	地質	博物館	文化財	環境団体	天然記念物	高知徳島愛媛香川	高知徳島愛媛香川
凡	例	高知徳島愛媛香川	特異な植生						

< 各種資源の集積状況 >

地質資源

地質資源



凡例	
高知	●
徳島	●
愛媛	●
香川	●

地質資源（徳島県）

No.	名称	所在地	地域の概要
1	鳴門の渦潮	鳴門市 大鳴門橋直下	鳴門海峡では、海峡をはさんで満潮と干潮が接することにより、大きな潮の段差が出来て満潮側から干潮側へ速い潮流が形成される。さらに、鳴門海峡の海底には盆状の丸い凹みがあり、この周りを速い潮流が流れて渦潮ができるとされている。渦潮が、見事に見られるのは世界でも稀であり、手軽に見ることが出来るのは、世界でも鳴門だけとされている。
2	阿波の土柱	阿波市桜の岡	阿波の土柱は、第三紀後期～第四紀の土柱層の作る侵食地形である。土柱層は中央構造線に沿って分布する地層で、主に礫層・砂層からなる。土柱層は十分固結していないため、侵食しやすい。そのため、植生に覆われる間もなく礫層が急崖をなして露出しており、多くは急崖をガリーが縦に刻んだものである。土柱の成因は、固い和泉層群起源の砂岩の巨礫があるとこれが障壁となって侵食を阻害し、その周囲が侵食されて柱状に残るとする考えがある。
3	大歩危峡の礫質片岩	三好市山城町大歩危	大歩危の礫質片岩は、三波川変成岩類の中でも産出の珍しい礫岩起源の変成岩が吉野川沿いの大歩危峡に分布しているものである。三波川変成岩類は、主に緑色片岩、泥質片岩からなるが、大歩危付近では主に砂質片岩が分布し、それに伴って礫質片岩が分布している。
4	穴喰の化石漣痕	海部郡海陽町穴喰浦	穴喰の化石漣痕は、四万十帯古第三系の砂岩泥岩互層に見られる。漣痕は砂岩層の上面に形成される魚の鱗のような堆積構造で、通常は水深50cm程度で波が干渉するような水底で舌状に形成されるものである。この露頭は天然記念物に指定されている。
5	池田の活断層地形	三好市池田町	池田町の活断層地形は、中央構造線活断層系の一つである池田断層によって、約2万年前に形成された河岸段丘面がずらされている。北側の池田高校等がある上野ヶ丘は、その南側の池田駅や市役所のある面から20～30m上昇している。池田断層に沿っては右横ずれ変位もあることが推定されている。
6	鳴門の和泉層群中のデュプレックス	鳴門市中山	デュプレックスという構造は衝上断層が形成される時に、下盤の地層を少しかすめ取ることを繰り返して、瓦を斜めに重ねたように覆瓦状になったものである。デュプレックスにはルーフ衝上断層とフロアー衝上断層が存在し、両者の間にホースと呼ばれるブロックが詰め込まれている。鳴門の和泉層群の採石場跡には、砂岩泥岩互層中に少なくとも3つのデュプレックスが存在している。
7	穴喰の安芸構造線	海部郡海陽町穴喰	安芸構造線は、四国の四万十帯を北帯（白亜系）と南帯（古第三系～新第三系中新統）に分ける大規模な衝上断層である。北側の白亜系が南側の古第三系の上に低角に衝上したが、その後、断層および上盤・下盤の地層とも北方に傾斜したため、断層面は70°と急傾斜となっている。このような大規模な断層が、道路際で観察されることは非常に珍しい。
8	徳島県立博物館	八万町向寺山 文化の森総合公園	徳島県立博物館は、昭和59年1月に設置された。実物資料や最新の情報に基づき、徳島及び関連する地域をはじめ世界の自然や歴史、文化について幅広く展示している。
9	ラピス大歩危	三好市山城町上名1553-1	世界中から集めた天然石や鉱石などを展示した「石の博物館」をメインにした観光・歴史・文化の情報発信施設。名前の「ラピス」は青い石「ラピスラズリー」に由来し、すぐ横を流れる吉野川の青い流れをイメージしている。館内の展示は「石を科学する」「人の暮らしと石」「石の花」の三つがテーマにされている。
10	つるぎ町一宇の土釜	美馬郡つるぎ町一宇	一宇峡を代表する名所として貞光地区との境界点にある「土釜」は、岩が侵食されて出来た滝壺で、一の釜、二の釜、三の釜からなり、全国的に見ても非常に珍しい奇勝とされ、「県指定天然記念物」となっている。
11	美濃田の淵	三好郡東みよし町	美濃田の淵は、長さ2km、幅100mにわたる深い淵で、県の名勝・天然記念物に指定されている。美濃田の淵は南岸から連なる結晶片岩の地層からなっており、もとは南岸に位置していた結晶片岩の地層が南へ移動した吉野川によって、侵食され、こちらの奇岩・怪岩の景観が形づくられたと考えられる。川底から立ち上がり河岸を形作る岩盤や川中に散在する岩にはその形などにちなんで、「獅子舞岩・鯉釣り岩・妹背岩・うなぎ巻岩・作造岩」などの名前がつけられ、それぞれにいわれが語り伝えられている。
12	美波町日和佐のえびす洞	海部郡美波町日和佐	高さ52mの岩山が波に浸食されてできた直径30m、奥行き40mの大きな穴。穴を通じて外海が見えるが、穴の中に波が押し寄せ迫力がある。また、穴の中には珍しいイワツバメが生息している。岩山の上まで遊歩道が続いており、展望台からは大浜海岸や太平洋が見渡せる。
13	美波町日和佐の千羽海岸	海部郡美波町日和佐	日和佐港の南西に2kmにわたって高さ200m程の断崖が続く海岸で、室戸南海岸国定公園特別保護地区。岩壁が垂直的な傾斜で屏風を広げたようにそそり立つ豪壮な景観。千羽海岸の名前は、弘法大師が岩壁の裂け目に巣をかけた千羽の鳥が一斉に飛び立つ様子を見て名付けたといわれる。日和佐城から千羽海岸まで4kmの遊歩道が整備されている。また、海岸沿いの南阿波サンラインからも、一部が見られる。
14	勝浦町立川溪谷のシルル紀層と白亜紀恐竜産地	勝浦郡勝浦町立川	勝浦郡勝浦町、勝浦川の支流立川（たづかわ）の中流から下流は深いV字谷となっており、ここを立川溪谷という。勝浦町立川地区には日本でも最古といわれる古生代の地層があり、約4億年前の化石といわれているクサリサンゴ、ハチノスサンゴやシダ類、貝類、アンモナイト等多数産出している。平成6年4月には、イグアナ科の草食恐竜の歯の化石が、1億2千万年～1億3千万年前に形成された白亜紀前期である立川層の泥岩の中から発見された。
15	佐那河内村の御荷鉾緑色岩類	名東郡佐那河内村	いわゆる「青石」と呼ばれる徳島県産の庭石として用いられている。
16	木沢村の蛇紋岩・枕状溶岩	那賀郡那賀町	黒瀬川構造帯を構成している岩石の一部で、結晶片岩類のブロックを含んでいる。球を積み重ねた構造の典型的な枕状溶岩が広く分布している。
17	木屋平村の森遠地すべり	美馬市木屋平	標高370～750m、平均勾配は24°、長さ(南北)約1200m、幅約700m、面積80.6haを占め、四国地方の結晶片岩地域では最大規模を示す地すべりの一つである。本域の主部は三波川結晶片岩帯に属し、南北二帯に分かれる御荷鉾緑色岩地域に地すべり頭部と末端部が位置している。
18	善徳地すべり	三好市西祖谷山村善徳	善徳地すべり防止区域周辺の地質は三波川変成岩類に属し、広域的な地質構成は、砂質片岩、泥質片岩、珪質片岩、塩基性片岩により構成され、これらは互層をなしている。善徳地区においては、下位より泥質片岩、砂質片岩が分布し、塩基性片岩は防止区域をほぼ東西方向に走る断層の北側に分布する。被覆層として斜面全体に崩壊土が分布している。地質構造をみると、ほぼ東西方向(N74°E)に延びる向斜軸(下名向斜)が、かすら橋付近に位置し、このため、向斜軸の北側にある善徳区域では、南側に向いた斜面が流れ盤となり、南側にあたる今久保ブロックにおいても、斜面が北側を向いているため、同様な流れ盤となっている。

地質資源（香川県）

No.	名称	所在地	地域の概要
1	土淵海峡と天使の道・エンジェルロード	小豆郡土庄町土庄	小豆島の玄関、土庄港から東南東に続く土淵海峡は、土淵港と池田港を結び延長2.5kmの海峡であるが、最狭幅が9.93mしかなく、平成8年1月に世界で1番狭い海峡として認定された。土淵海峡の南にある弁天島から中余島を經由して大余島までの「天使の道・エンジェルロード」は、砂州によって繋がった陸繋島である。この「天使の道・エンジェルロード」は潮の流れにより砂が堆積し、1日に2回、潮の干満時に海面の砂州が現れるところである。
2	段山とオリーブ公園	段山:小豆郡小豆島町池田字段山 オリーブ公園:小豆郡小豆島町西村甲1941-1	段山は花崗岩を基盤とし、山頂部が讃岐岩質安山岩からなる開析溶岩台地(マサ)である。基盤の花崗岩類は風化を受け、地表付近ではマサと呼ばれる風化岩や風化土になっている。小豆島は、海岸から一気に800mの山になる急峻な地形と粘着力の小さな花崗岩の風化層(マサ)が斜面の表層部にあるため、豪雨の時には表層崩壊や土石流が発生しやすく、時として甚大な災害となる。道の駅小豆島オリーブ公園は土石流扇状地を利用している。
3	二十四の瞳映画村	小豆郡小豆島町田浦甲931	小豆島町田浦地区南、瀬戸内海を見渡す海岸沿い約1万㎡敷地に、映画「二十四の瞳」(監督:朝間義隆、主演:田中裕子)のロケ用オープンセットを改築した二十四の瞳映画村がある。この敷地は、田浦半島とその西側の権現鼻のある陸繋島を結ぶ陸繋砂州上にある。
4	寒霞溪の火山角礫岩の浸食地形	寒霞溪山頂駅: 小豆郡小豆島町神懸通	小豆島の山頂部は、安山岩質溶岩がテーブル状に分布する開析溶岩台地となっている。山頂部を占める溶岩は、星ヶ城山、美しの原などは輝石安山岩からなり、皇踏山・段山は讃岐岩質安山岩からできている。この星ヶ城から美しの原へ続く開析溶岩台地の南斜面は激しい侵食地形となっており、急崖の露出する火山角礫岩の荒々しい山肌と岩壁の紅葉が見事な景観を形成している。このような地形は、溶岩台地が浸食される過程で、大規模崩壊が発生し、その跡地が長年の風雨にさらされた結果と考えられる。しかし、いつ、どのような原因で大規模な崩壊が発生したかは分かっていない。
5	銚子溪の安山岩の板状節理	小豆郡土庄町	讃岐岩質安山岩に数cmから数十cmの厚さで割れ目ができ、まるで板が何枚も重なっているかのように見えている。このような割れ目は、火山活動が激しくなった時期に噴出した溶岩が急激に冷やされたためにできたものと考えられている。このように岩石にできた割れ目のことを「節理」といい、板状になっているものを「板状節理」と呼んでいる。
6	中山の千枚田・名水百選	小豆郡小豆島町中山	小豆島町中山地区は、伝法川の上流に当たり、大規模な地滑り地形の緩斜面を利用した棚田が、中山の千枚田として、農林水産省の「日本の棚田百選」に指定された。この棚田の水は、背後の湯船山山腹から湧出する湯船の名水によって涵養されている。湯船山は、銚子溪と同じく讃岐岩質安山岩から構成され、その山麓には軟質な凝灰岩層が分布している。
7	大坂城石切帳場残石群と大坂城残石記念公園	大坂城残石記念公園: 小豆郡土庄町小海甲909-1	小豆島の基盤は、白亜紀後期の領家花崗岩類と広島型花崗岩類からできている。風化をうけていない花崗岩類は硬質で風化に強く墓石や石垣に使用されてきた。小豆島の北部は、昔から石材の産出が多く、大阪城の修築用の石を切り出した丁場が今も残っている。また、大坂城残石記念公園は、徳川幕府の大坂城拡張・修築工事の際、石垣石の産出を行った場所で、道の駅として整備され小豆島の花崗岩に関する展示がある。
8	吉田ダム	小豆郡小豆島町吉田	吉田ダムは、吉田川水系吉田川の香川県小豆郡小豆島町吉田地点に多目的ダムとして香川県によって平成9年に建設された。堤高74.5m、堤頂長218m、堤堆積31.7万㎡、総貯水容量236万㎡、重量式コンクリートダム。このダムの特徴は、堤高74.5mで香川県一の高さを誇ることで、森庄川上流に分水堰を設置し、分水トンネルにより吉田ダムへ導水し、森庄川と吉田川と併せて洪水調整を行うことである。吉田ダムの基礎岩盤は白亜紀後期の花崗岩類である。
9	土庄層群の化石	小豆郡土庄町	小豆島の北西部には、古第三紀始新世に堆積した土庄層群が分布している。本層群の下部の伊喜末層は亜炭を含む潟湖成で、上部の四海層になると貝化石などの海棲化石を多数含み、純浅海生成の様相を示す。
10	牟礼町と庵治町の石材加工産業	高松市牟礼町、庵治町	牟礼町と庵治町は、最高級の石材といわれる庵治石の産地を背景とした、真壁(茨城県)・岡崎(愛知県)と並び称される石材加工品の三大産地の一つ。石材加工関連会社は約200社くらいある。石材製品は、山から採掘された母岩を、大割・小割りし、切断・研磨加工を施すことにより最終製品に仕上げられる。
11	イサム・ノグチ庭園美術館	高松市牟礼町牟礼3519	故イサム・ノグチ(1904ロサンゼルスー1988ニューヨーク)は、岩塊を材料とする世界的に著名な日系二世の彫刻家である。アメリカ国内外の各地で、彫刻、モニュメント、環境設計を続け、「地球を彫刻した男」と呼ばれている。このイサム・ノグチのアトリエが、イサム・ノグチ庭園美術館として公開されている。
12	石の民俗資料館	高松市牟礼町牟礼1810	石の民俗資料館は、400年にわたって築き上げられた石の文化と歴史、特に石工達の知恵と技術、優れた技能に触れることができる。館内では、大正末期から昭和初期にかけての牟礼町における石の切り出し、運搬、加工のそれぞれの風景を、等身大の人形を使ったジオラマでリアルに再現している。
13	五剣山八栗寺	高松市牟礼町牟礼3416	五剣山は火山岩類からなる岩峰で、もとは5つないし6つの剣のような峰からなっていたが、1707年の宝永地震時の地震動で峰が大規模に崩壊し、現在の4つの峰となった。南東方向からは4つの峰が1つに重なって見える。また露岩部分には多くのノッチやタフオニが存在し、岩山が独特の景観を形成する。八栗寺は四国第八十五番の霊場と共に歓喜天霊場として知られ、淳和天皇の天長六年(西紀892年)の創建で弘法大使空海の開基といわれている。独特の景観が宗教性に結びついたものである。
14	庵治町白粉峠	高松市庵治町	庵治町白粉峠には、文字通り白い粉からできたような流紋岩質凝灰岩が十数mの厚さで分布している。この凝灰岩は白粉石とよばれ、鹿児島県のシラスに似た性質があり、窯業の原料として利用されたことがあるようだ。

15	屋島	高松市 屋島	屋島は山頂部の南北幅が約3300m、東西幅が最大約540mの開析溶岩台地(メサ)で、昭和9年に国の天然記念物に指定された。屋島の基盤岩は黒雲母花崗岩からなり、標高150m付近より標高290mの山頂部にかけて順次凝灰岩、凝灰角礫岩、讃岐質安山岩がほぼ水平に重なり全体として侵食を受けた開析溶岩台地を形成している。
16	高松城(玉藻城)	高松市玉藻町	旧高松城下であった市の中心部は、香東川の三角州扇状地からなる微高地にあり、沿岸部で最も良い地形と岩盤のところに立地している。高松城、別名玉藻城は、日本の三大海城のひとつで、1590年に生駒親正によって建てられ、その後松平頼重によって3層5階の天守閣が1669年に完成した。完成後、2回の大地震を経験するが、大きな被害はなかったといわれている。これは、沿岸部でありながら、香東川の扇状地性の礫質地盤の上に建設したためと考えられ、当時の立地技術の高さを示している。
17	栗林公園	高松市栗林町	栗林公園は、紫雲山を借景として6つの池と13の築山を巧妙に配した大名庭園で、回轉式庭園の南庭と近代的に整備された準洋式の北庭から構成され、特別名勝に指定されている。栗林公園は、香東川の旧河道に位置し、扇状地扇端付近の豊富な地下水を利用している。栗林公園の南端に吹上亭には深井戸があり、ここからくみ上げた地下水を園内の池に供給している
18	仏生山の高松クレーター	高松市仏生山町	高松クレーターは、重力探査によって発見された伏在陥没構造で、高松市仏生山町にある法然寺を中心に直径約4km、深さ千数百mの規模と推定されている。この陥没構造の成因については、隕石衝突説と火山のカルデラ説がある。
19	五色台とサヌカイト	坂出市 五色台	五色台は、中期中新世の約1400～1200万年前に噴出した讃岐層群からなる、開析溶岩台地(メサ)で、高松平野の西縁に位置している。五色台では、基盤のマサ化した花崗岩の浸食面上に、黒雲母流紋岩質凝灰岩・角閃石斜方輝石安山岩質火山角礫岩・讃岐岩(サヌカイト)溶岩の順に重なっている。
20	香川県立五色台少年自然センター自然科学館	坂出市王越町木沢1901-2	サヌカイトの標本のほか香川県の岩石、化石などが展示されており、香川県の地質について勉強することができる。
21	鷲ノ山と石棺	坂出市と高松市の境	国分寺町鷲ノ山の角閃石安山岩は、柔らかく、加工しやすいことから、古墳時代には石棺として利用されていた。
22	坂出市金山とサヌカイトホーン	坂出市 金山	坂出市の市街地の南東にある金山は、山体頂部にサヌカイトを載せる標高282mの独立丘である。金山東斜面には、2つの大規模地滑り地形が形成されており、標高100 - 150mに緩斜面が形成されている。この緩斜面は、元来金山の山頂が、地すべりによってすべり落ちたもので、サヌカイトの岩塊や岩屑から構成されている。すべり面は、サヌカイト直下にある花崗岩を不整合に覆う流紋岩質凝灰岩層で発生している。この地すべり緩斜面はサヌカイトの碎石場で、旧石器時代のサヌカイト製石器製作場跡と考えられている。なおサヌカイトを使った楽器(サヌカイトホーン)を、地元の方が創作し演奏している。
23	丸亀平野と飯野山(讃岐富士)	丸亀市と坂出市の境界	讃岐平野の特徴は円錐状の小山が郡立することである。代表的な飯野山は、標高422mの孤立峰で、山麓は花崗岩からなる緩斜面で、標高230 - 250mから山頂にかけて讃岐岩質安山岩が分布している。
24	香東川河床の三豊層群と長尾断層	高松市さぬき市	長尾断層は南側の花崗岩類が第四期堆積物の上のし上がった逆断層で、高松市香南町からさぬき市大川町に至る長さ約2.4kmが活断層とされている。さぬき市長尾町西では、長尾断層が露出した崖が「長尾衝上断層」として、香川県指定天然記念物に指定されている。
25	塩江温泉	高松市塩江町	塩江温泉は、讃岐山脈の北麓にある温泉郷で、高松の奥座敷と呼ばれている。讃岐山脈と北側の地形境界に沿って、南傾斜の逆断層である榎原断層、田中断層が東西方向に走っている。榎原断層、田中断層に沿って、約1400万年前の流紋岩が貫入し、周囲に硫黄臭のする熱水変質作用を与えている。この熱水変質作用は、断層沿いだけでなく、花崗岩類と和泉層群との不整合面に沿っても認められる。塩江温泉の湯元は、この不整合面付近にある。

地質資源（愛媛県）

No.	名称	所在地	地域の概要
1	市之川礫岩および市之川鉱山	西条市 市之川地区公民館付近から渓谷沿い上流約100m間	<p>西条市市之川付近の三波川変成岩類上に久万層群に対比される礫岩層が分布している。この礫岩層については20世紀初頭から多くの研究者によって研究されてきた。</p> <p>市之川集落や市之川河床、小松尾の尾根、番尾から西南に向かう谷底に三波川変成岩類由来の、まれに砂岩や泥岩の礫よりなる礫岩層が分布しているが、これらは始新統久万層群に対比されるものである。</p> <p>市之川地区公民館(廃校となった市之川小学校)下の市之川河床では、次に示す4種類の礫質岩様石が識別できる。結晶片岩類由来の角礫-亜角礫よりなり基質は炭酸塩鉱物および白雲母のもの、結晶片岩類由来の角礫-亜角礫に和泉層群由来の砂岩や泥岩の亜円礫を混じえ、基質が灰白色泥岩のもの、流水の作用を受けた結晶片岩類由来の礫質砂岩、また、転石やずりとして圧砕され黒色を呈する結晶片岩からなる断層角礫岩様(空隙に輝安鉱や石英の結晶を有す)。</p> <p>市ノ川鉱山は三波川帯大牛院層の泥質片岩および市ノ川礫岩中に発達した鉱脈型の輝安鉱鉱床であり世界的な巨晶を産したことで知られている。鉱床は中央構造線に沿って発達しており、急傾斜の鉱脈群(千荷ひ、大盛ひ、亀ひ、鶴ひ)と水平な鉱脈群(横ひ)からなる。市之川の山中には現在も多くの坑口が残っている。この中で約300年前に千荷鉱脈掘削のため開口された千荷坑は市之川鉱山最大の坑道である(高さ2.6m、幅1.9m)。現在坑口は塞がれているが、最盛期の明治23年に造られた坑口の石積みは残っており往時を偲ぶことができる。</p> <p>Sb₂S₃の化学組成を有する輝安鉱は、アンチモンの主要鉱石鉱物であり、日本においては市之川鉱山が最大の鉱山であった。また市之川鉱山は巨大輝安鉱結晶を産したことで世界的に知られている。市之川鉱床は三波川帯泥質片岩や市之川礫岩中に派生する割れ目充填型の石英-輝安鉱熱水脈である。輝安鉱は一般に柱状結晶集合体をなす塊状鉱として生成しているが、角レキ状化した部分に発達するやや扁平な大晶洞に、水晶と共に巨大な自形結晶をなすことがある。輝安鉱は多種の結晶面を持つ斜方長柱状結晶をなし、最長60cmを超える世界的巨晶も産した。これらの結晶について詳細な鉱物学的研究が行われ、市之川産輝安鉱は日本鉱物学の形態的研究の発展にも寄与した。巨大結晶の多くは海外に流出してしまい現在、大英博物館、スミソニアン博物館等20ヵ所近い海外の博物館に所蔵されている。</p>
2	石鎚山と石鎚コールドロン	石鎚山:西条市西之川字元山 石鎚コールドロン:上浮穴郡久万高原町周辺	<p>石鎚山は西日本一の高峰(標高1982m)であり、起伏量西日本一の四国において、中央構造線の地殻変動に関連して上昇した三波川帯と高縄-足摺の南北軸の曲隆帯との交点付近に位置する。</p> <p>この地域では、基盤岩である三波川変成岩類の上位に新第三系の久万層群(400m)および天狗岳火砕流・夜明峠変質安山岩・高野火砕流からなる石鎚層群(1800m)が重なっている。石鎚山の南側では、それが直径7~8kmの円筒状岩体となって大陥没し、「石鎚コールドロン」を形成している。その巨大な円形陥没の中央部あたりには現在の面河渓谷で見えるような深成マグマの花崗岩類が、また北部の山頂付近では外側の円形断層(環状の安山岩や脈岩)を見おろすように天狗岳火砕流の石鎚山尖峰列がそびえていて、現在その全域が石鎚国定公園(1955)えひめ自然百選(1990)などに選ばれている。</p> <p>石鎚スカイラインは石鎚コールドロンを横切るところがあり、コールドロン内部とその外側とを見ることができ。石鎚山周辺の基盤岩は三波川帯の緑色片岩相に属する緑色片岩及び黒色片岩が分布している。石鎚層群の分布はほぼ円形で直径8kmにも及び、天狗岳火砕流岩体の外縁には環状断層が発達し、その外側には結晶片岩が分布している。この陥没の深さは1200~2200mと推定されている。</p> <p>石鎚スカイラインは、関門(標高632m)から土小屋(標高1492m)までの8.1kmを円弧状に面河溪の南から東廻りで山腹をめぐる山岳道路である。その路端には適所に関門からの距離が標示してある。関門から猿飛谷あたりまでは緑色片岩が崖面に散出するが、3.9kmから8.9kmの金山谷手前、保土迫燧道入口の間はコールドロン内側の天狗岳火砕流岩体の中を通過している。その周辺には、三波川変成岩を原岩とするホルンフェルスが露出している。このホルンフェルスは従来伏在する花崗岩類の接触変成岩であると考えられてきたが、最近の研究で新第三紀における高温流体の流入による熱変成作用によって形成されたと考えられている。</p>
3	別子ライン沿いの三波川変成岩と清流	新居浜市立川山	<p>別子ラインは、笹ヶ峰に源を発し、石鎚断層崖を北流して燧灘に流入する国領川の支流、小女郎川流域の渓谷であり、角野町生子(しょうじ)橋よりマイントピア別子一端出場、鹿森ダム、清滝を経て河又に至る約10km間のV字形峡谷である。</p> <p>別子ライン流域の岩盤を構成する岩石は三波川変成岩類で、下流部は泥質片岩、上流部は塩基性片岩である。生子橋付近の甌穴群、上流のちぎり淵・千鳥淵・材木岩の景勝があり、鹿森ダムからは小女郎川と足谷川に分岐する。いずれの渓谷も側壁は急崖となっており、特に足谷川合流点右岸、小女郎川中流域では特に顕著で、箱型の深谷を形成し渓流の瀬・淵・甌穴などが急崖の自然林と相まって、四季それぞれの見事な景観を造り出している。小女郎川では、支流の侵食に対して本流の下刻が激しく懸谷を形成しており、特徴ある懸谷滝が見られる。「清滝」はその一つで、小女郎川の左岸にあり落差約60mである。滝は上方で2段となり、滝水は直下でなく下流側にそって流下し、支流に注いでいる。</p> <p>別子ライン入り口の生子橋付近の大山神社境内には、別子銅山記念館がある。旧別子銅山の端出場には、マイントピア別子一端出場ゾーンがあり鉱山鉄道・温泉などを備えたテーマパークとなっている。県道の清滝トンネルの両口から、旧道沿いに行くと小女郎川を渡る清姫橋に至る。清姫橋から遊歩道があり、四阿屋・トイレ・休息所などが設けられており、滝直下の天望台(滝見台)に至る。更に急崖を約40m登ると清滝大権現不動明王を祭る清滝不動院に至る。</p>
4	八釜の罅穴群	上浮穴郡久万高原町柳井川	<p>「八釜罅穴群」は上浮穴郡柳谷村に位置し、昭和9年(1934)の5月国指定天然記念物に、昭和27年(1952)の3月に特別天然記念物に指定された。罅穴が形成されている岩盤の多くは堅硬な北部秩父帯のチャート層からなり、罅穴の侵食が遅く今後も長期間の現状維持が期待される。</p> <p>この硬度の高いチャート層に形成された直径10m前後の巨大罅穴群の罅穴の成因としては稀な空洞化侵食によると考えられている。これは、100年に一度の確率の大出水時(秒速10m以上)に空気を多量に含むジェット流が生じ、これに浮流・跳流して来た砂礫破砕片が磨耗材となって渦動流と共に罅穴内壁を削剥し、激変的成長を見たとしている。</p> <p>「八釜の罅穴群」のうち、8個の巨大罅穴は滝壺状の渦動穴が互いに連結した溝穴型罅穴で、他は岩盤上や側壁に点在する小型渦動穴である。</p>
5	四国カルストと枕状溶岩	上浮穴郡久万高原町、西予市野村町	<p>四国カルストは、高知県天狗高原から愛媛県大野ヶ原に至る延長約25kmの、標高約1100m~1500mの県境山地に石灰岩が断続的に分布する地域である。同カルストは、高山カルストとして著名であり、隆起準平原を構成している。東部より天狗高原・五段城・姫鶴平・牛城・大野ヶ原に区分される。</p> <p>カルストを構成する石灰岩は、古生代二畳紀の紡錘虫化石を含み、石灰岩体下部には玄武岩質枕状溶岩やハイアロクラスタイトを伴っており、日本列島に衝突・付加した海山もしくは海台の上部であると考えられている。四国カルストの石灰岩の表面には、溶食溝(カレン)の発達したビナクルが乱立するカレンフェルトが形成されている。一方、地下に浸透する地下水は、地表にすり鉢状の穴(ドリーネ)を造り、さらにドリーネが結合しウパーレとなった後、次第に広い窪地(ポリエ)を造っている。大野ヶ原では小松・笹ヶ峰・寺山・姫草にポリエが認められ、姫鶴平北部や天狗高原西部では特にドリーネの密集部が認められる。大野ヶ原の小松ガ池は、ドリーネに水の溜まったカルスト湖である。寺山ポリエには竜王洞があるほか、カルスト山地の周辺部には羅漢穴を始めとする多くの鍾乳洞が胚胎されている。</p> <p>四国のみち・四国カルストルートは久万高原町(旧久万町)畑野川から久万高原町(旧柳谷村)天狗高原までの間に6コースが設けられている。</p>

6	大島変成岩とシェードタキライト	八幡浜市大島	<p>八幡浜大島の北島は三波川変成岩とこれに衝上する大島変成岩からなり、南の地大島は主として白亜紀真穴層から構成される。大島変成岩ははんれい岩、閃緑岩、花崗閃緑岩起源の片麻岩およびマイロナイトを主体とし、これらの間に堆積岩起源の片麻岩(一部マイロナイト化)の薄い層が挟まれる。これらの変成岩の年代は後期白亜紀であり、従来は黒瀬川構造帯の構成要素と考えられていたが、年代からみて領家帯(古領家帯)に関連するものと見なされるようになった。大島変成岩体の中に大規模なシュードタキライト断層帯が存在する。</p> <p>大島変成岩体は火成岩源片麻岩およびそのマイロナイトを主体とする200m程度の厚さの層状岩体で、三波川変成岩層に衝上した内帯側島弧地殻(古領家帯ないし領家帯変成岩層)の深部層を示すものと考えられる。シュードタキライト断層帯(シュードタキライトを伴う断層が集中的に分布するゾーン)は5帯あり、いずれも大局的にはマイロナイトの面構造(および片麻岩の面構造)に平行に存在する。これらの断層は海岸の露頭で、その3次元的構造が観察できる。シュードタキライトの母岩は変はんれい岩および花崗閃緑岩起源のざくろ石黒雲母片麻岩、砂質堆積岩起源の片麻岩である。三波川変成岩層との接触部に近い断層帯のシュードタキライトは片状化し、緑色片岩相条件で再結晶作用を被っている。</p> <p>大島変成岩は高度角閃岩相に達する岩石であり、はんれい岩や閃緑岩、花崗閃緑岩などの火成岩を主体とすることからみて、島弧の下部地殻を構成していた岩石であると見なされる。火成岩の年代は110Ma変成作用の年代は100Ma前後であるので、肥後変成岩や関東の寄居変成岩に対比されている。</p>
7	東赤石かんらん岩	四国中央市土居町東赤石山付近	<p>別子地域の三波川帯には、五良津角閃岩体、東赤石山かんらん岩体および瀬場谷変はんれい岩体など、周囲の三波川変成岩より高温高压の変成履歴を示し、通常の三波川変成岩にはみられないエクロジャイトやグラニュライトを伴う岩体が存在する。近年、このような岩体の分布する地帯は一種の構造性メランジュ帯であり、これらの異質岩体は三波川変成岩中に固体貫入したテクトニック・ブロックであると考えられている。</p> <p>東赤石かんらん岩体は、東赤石山西方から肉淵谷にかけて東西7km、南北最大1.5kmのレンズ状の岩体として分布する。この岩体は、ざくろ石レールゾライト相でキュームレイトかんらん岩として形成された後、高温のエクロジャイト相の変成作用(700 、1.5GPa)を受け、その後、現位置で三波川変成作用(約600)を被った岩体である。この岩体はダナイトを主とし、少量のウェルナイト、ざくろ石ウェルライト、ざくろ石斜方輝石ウェルライト、ざくろウェブステライト、単斜輝石、ざくろ石単斜輝石、ざくろ石ダナイトおよびクロム鉄鉱等からなる。この岩体周辺部では、蛇紋石の定向配列による片状構造が発達する。この片状構造は周囲の三波川変成岩の構造と調和的である。この岩体の五良津角閃岩体側では、ダナイト中に層厚数cm～数10cmのブーディン状または属状のざくろ石単斜輝岩が見い出される。ざくろ石単斜輝石のブーディンの核部にはざくろ石、周辺部には単斜輝石に富む累帯構造を示すことが多く、ブーディンの周囲のダナイトはマイロナイト化作用を受けている。また、緑簾石角閃岩化の進行したざくろ石単斜輝岩には緑簾石、淡緑色ホルンブレンド、緑泥石が形成されている。</p>
8	高月山花崗岩	北宇和郡鬼北町成川	<p>高月山花崗岩は14Ma(中新世)に四万十帯の上部白亜紀層に貫入した典型的な外帯花崗岩で、いわゆるSタイプ(過アルミナ質)の特徴をもつ。高度変成岩ゼノリスやゼノクリストを含む。約20km南にも小岩体がある。</p> <p>高月山岩体を構成する花崗岩類は主として花崗閃緑岩質であるが、花崗岩から閃緑岩まで極めて多様性に富んでおり、1露頭スケールでも岩相が変化することが珍しくない。主体となる花崗閃緑岩は、累帯構造の顕著な斜長石、石英、黒雲母、少量のカリ長石からなり、副次的に電気石、キン青石、シソ輝石を含むことがある。岩体の北西部にはとくに、電気石を多量に含む花崗閃緑岩が存在する。変成岩ゼノリスや紅柱石、珪線石、スピネルなどのゼノクリストが多く含まれるのもこのような電気石花崗閃緑岩である。とりわけ特徴的な岩相は、電気石を10～20%含み、他の有色鉱物をもたない花崗閃緑岩で、玉石状ないしブロック状に黒雲母花崗閃緑岩中に存在する。</p> <p>珪線石は電気石花崗閃緑岩にしばしば含まれている。一般に肉眼で識別できる大きさのもので、とくに大きなものは長さ3cm、幅0.7cmに達する。薄片でみると珪線石のリムはほとんどの場合、緑色のスピネルの反応縁に取り巻かれている。</p> <p>ゼノリスとして含まれる高度変成岩には、ざくろ石-キン青石-黒雲母片麻岩、ざくろ石-シソ輝石グラニュライト、輝石グラニュライトなどがある。</p>
9	砥部衝上断層	伊予郡砥部町岩谷口	<p>断層露頭は砥部川河床にあり、ここが中央構造線の砥部時階の模式地となっている。日本列島の構造発達史を考察する上で非常に重要な中央構造線の露頭であり、昭和13年5月30日に国の天然記念物に指定されている。</p> <p>砥部川河床の断層すく南側に小さな滝(カガス淵)がかかり、この南に直径約4mのポットホール(甌穴)がある。</p> <p>断層の北(内帯)側には上部白亜系の和泉層群が、南(外帯)側には三波川変成岩類や第三系の久万層群が分布し、中央構造線に沿って幅50～100cmのフィロナイト様岩(三波川変成岩類の絞り出されたものとする考えもある)が、走向N70°E、傾斜30°Nで貫入している。</p> <p>北(内帯)側に分布する和泉層群は、中粒砂岩と泥岩の互層より成り、中央構造線に近づくにつれ圧砕され黒色を呈している。また、砂岩層は引きちぎられレンズ状やソーセージ状を呈し、破砕された泥岩中に散在している。これら和泉層群は、中央構造線から北へ離れるにしたがって、徐々にしっかりした和泉層群になってゆく。中央構造線の約15m北側の和泉層群中に正断層と判定される走向N40°E、傾斜50～70°Nの小断層が数条発達している。</p> <p>三波川変成岩類は、中央構造線の断層露頭の約100m上流以南に分布しており、緑色片岩を主とし黒色片岩を伴っている。</p> <p>この三波川変成岩類を不整合に覆って、三波川変成岩類の角礫だけからなる久万層群"二名層"が、そしてこの上位に北(内帯)側から供給された和泉層群の砂岩礫などの円礫よりなる久万層群"明神層"が分布している。"明神層"中には礫を1cm水平方向に食い連わせる小断層が十数条発達している。また、中央構造線下盤の"明神層"中の砂岩層の断層活動による引きずり構造が観察できる。</p>
10	群中層	伊予市森～同三秋	<p>郡中層は、松山市南南西方の伊予市森の海岸に分布する砂礫・粘土層などの堆積物からなる地層で、扶桑木と呼ばれてきた材化石を含むメタセコイア植物群や淡水棲貝類の化石を産する。郡中層は、礫層や砂層・シルト層・粘土層より成り、まれに火山灰を挟む層厚250m以上の湖沼や扇状地、三角州堆積物である。一般的な走向・傾斜はN50～65°E・27～85°Nである。</p> <p>火山灰中のジルコンのフィッシュオントラック年代測定によって1.9±0.7Maの年代が得られているとともに、古地磁気は逆磁極期を示すことから、郡中層の堆積した時代は、鮮新世～更新世前期であることが明らかになっている。</p> <p>郡中層の南南東側は、走向N52～62°E、傾斜55～68°Sの郡中断層によって、和泉層群と接している。メタセコイアなど25属29種の植物化石が報告されており、前述した扶桑木は県指定の天然記念物(昭和31年11月3日)になっている。</p> <p>現在、海岸部なので崖が波により侵食されたり崩壊したりしているが、郡中層および扶桑木は干潮時には観察することができる。</p>
11	道後姫塚の白亜紀動物化石産地	松山市道後姫塚	<p>本地点では領家花崗岩類と和泉層群の不整合関係を見ることができる。不整合面直上には層厚20mほどの和泉層群の礫岩層があり、その上位に砂質泥岩層が重なる。この泥岩層より多数の大型化石が発見されているが、現在は立入禁止となっており、化石採集を行うことはできない。</p> <p>道後姫塚産の化石について、「愛媛の自然」にはウニ類、巻き貝類、イノセラムスや三角貝などの二枚貝類、サメの歯、アンモナイト類が報告されている。また、愛媛大学教育学部地学教室や愛媛県立博物館などに所蔵されていた標本類の中から、二枚貝化石についての報告がある。白亜紀後期の化石層序の検討に有意義なデータであることが述べられている。</p>

12	古城山の白亜紀動物化石産地	宇和島市長堀	<p>四万十帯の地層群の大半は半深海～深海の堆積物と推測されているが、宇和島市周辺に分布する四万十帯の地層群については大型化石が多数産出することより、浅海性の堆積物と考えられており、宇和島層群と呼ばれることもある。</p> <p>宇和島市中心部の南西に位置する古城山には、大型化石の産地として知られており、さまざまな種類の化石が報告されている。ここには主として砂質泥岩層が分布している。古城山の化石は、甲殻類、ヒトデ、海ユリ類、ウニ類、巻き貝類、イノセラムスなどの二枚貝類、およびゴードリセラスなどのアンモナイト類などが報告されている。また、宇和島市周辺地域の地質については、古城山周辺に分布する地層を古城山層と名づけ、産出する化石よりその年代を白亜紀後期のサントニアンと推定されている。古城山より以下のような大型化石の産出の報告がある。その他、サメの歯、魚のウロコ、イカの甲、単体サンゴなどの動物化石および、植物化石が報告されている。</p> <p>現在、露頭状況は良くないが、山の頂上付近の崖で、泥岩中よりイノセラムスなどの化石は見出される。</p>
13	名野川越植物群	西条市名野川越	<p>西条市名野川の瓶ヶ森林道周辺、土小屋から名野川越にかけては、三波川変成岩類の基盤を不整合に角礫岩が覆い、さらにその上に久万層群明神層の砂岩・泥岩互層が発達している。場所によっては、砂岩・泥岩互層中に凝灰岩を含むことがある。これらの砂岩・泥岩互層の堆積環境は、湖成あるいはそれに類する陸成環境であると考えられている。そのため、植物化石が多数採取される。</p> <p>この地点の化石植物群の構成種として、次の17種が報告されている。トクサ科、シダ目ウラボシ科、サンショウモ科、ヤナギ科、カバノキ科、ブナ科、ニレ科、クスノキ科、バラ科、マメ目カワラケツメイ科、マメ科、ウダイグサ科、カエデ科、ヒシ科、モクセイ科。</p> <p>これらの植物群は、既に報告されている我が国の化石植物群のいずれとも対比できない特異なものである。また、この地点の古環境は、産出した化石などから、流水の影響の及ぶ平野部の淡水湖域であり、構成種から現在の西日本の平野部に相当する気候であったと考えられている。</p>
14	石英エクロジャイト岩体	四国中央市土居町	<p>別子地域の三波川帯には、五良津角閃岩体、東赤石山かんらん岩体および瀬場谷変はんれい岩体など、周囲の三波川変成岩より高温高压の変成履歴を示し、通常の三波川変成岩にはみられないエクロジャイトやグラニユライトを伴う岩体が存在する。近年、このような岩体の分布する地帯は一種の構造性メランジュ帯であり、これらの異質岩体は三波川変成岩中に固体貫入したテクトニック・ブロックであると考えられている。</p> <p>石英エクロジャイト岩体は、地由山西斜面から権現山南西斜面を経て南斜面まで、東赤石山かんらん岩体と地由山かんらん岩体との間に最大幅約70m、延長約1.2kmにわたり層状に分布する。石英エクロジャイト岩体は周囲をおもに蛇紋岩類に囲まれている。石英エクロジャイト岩体は、石英に富む優白色のエクロジャイト質白色雲母石英片岩と濃緑色エクロジャイトの厚さ1cm～数10cmの互層からなる。現在、土居町権現越祠の岩体は、地元によって保護されている。</p> <p>ざくろ石単斜輝岩は、東赤石山かんらん岩体中のレンズ状岩体として産する。東赤石山かんらん岩体は、東赤石山西方から肉淵谷にかけて東西7km、南北最大1.5kmのレンズ状の岩体として分布する。この岩体は、ざくろ石レールソライト相でキュームレイトかんらん岩として形成された後、高温のエクロジャイト相の変成作用（700、1.5GPa）を受け、その後、現位置で三波川変成作用（約600）を被った岩体である。この岩体はダナイトを主とし、少量のウエルナイト、ざくろ石ウエルライト、ざくろ石斜方輝石ウエルライト、ざくろウェブステライト、単斜輝石、ざくろ石単斜輝石、ざくろ石ダナイト及びクロム鉄鉱岩からなる。この岩体周辺部では、蛇紋石の定向配列による片状構造が発達する。この片状構造は周囲の三波川変成岩の構造と調和的である。この岩体の五良津角閃岩体側では、ダナイト中に層厚数cm、数10cmのブーディン状または層状のざくろ石単斜輝岩が見出される。</p>
15	田穂の三畳紀化石(アンモナイト・コノドント)	西予市城川町田穂	<p>城川町田穂に分布する田穂石灰岩は、三畳紀前期のアンモナイトを産することで古くから知られる。この時代の化石は日本のどこからも発見されていなかった為に注目を集め、県の天然記念物に指定された。</p> <p>また、1962年に本石灰岩から三畳紀コノドントが抽出されたが、これは日本で最初の三畳紀コノドントの発見だとされている。</p> <p>田穂石灰岩の形態は様ではなく、塊状無層理の部分、層理が発達している部分、層理が乱れている部分等さまざまである。アンモナイト化石は、比較的層理が発達している西側に集中しており、貴重な露頭及び化石を保護するために金網で柵が施されている。</p> <p>産出するアンモナイト化石については、26種類のアンモナイト類が報告されている。城川町地質館に展示されているこのアンモナイト標本は、愛媛県で国体が開催された折に、昭和天皇に献上したものの残りだと伝えられている。また、旧日吉村の大野作太郎記念館には、アンモナイト化石数種類の展示と本化石の発見にまつわるエピソードや研究者との交流等が紹介されている。</p> <p>また、ボーリング調査とコノドントによって、この石灰岩体の下位に古生代ペルム系の存在を新たに確認し、田穂石灰岩は全体の層厚が約70mで、後期ペルム紀から後期三畳紀におよぶことが明らかとなった。なお約90種類のコノドント化石が記載されている。</p> <p>現在、愛媛県天然記念物として指定されているため採集は禁止されているので注意が必要である。</p>
16	つづら川の縞状ホルンフェルス	伊予郡砥部町つづら川	<p>四国中西部では、三波川帯の結晶片岩類が局所的に熱変成作用を受けてホルンフェルス化している。従来、ホルンフェルスの熱源はそれらの下位に伏在する火成岩体であると考えられてきたが、地質学および岩石学的検討に基づいて、原岩の三波川変成岩の片理面に沿って短時間に浸透した高温の熱流体であると考えられるようになった。</p> <p>砥部町縮川下流に分布するつづら川岩体は、鉱物組み合わせに基づいて、斜長石帯、普通角閃石帯および斜方輝石に変成分帯される。縮川岩体の斜方輝石帯のホルンフェルスは縞状を示し、主に斜方輝石十単斜輝石十斜長石十イルメナイトの組み合わせによって特徴づけられる。ただし、岩石はすべて細粒であるため、肉眼で鉱物を同定できない。</p>
17	佐田岬一帯の含銅硫化鉄鉱床群	西宇和郡伊方町	<p>佐田岬半島は泥質片岩や赤鉄鉱紅簾石片岩の薄層を挟む三波川帯緑色片岩の厚層から形成されている。緑色片岩中には多くの合銅硫化鉄鉱床群が胚胎している。これらは火山性塊状硫化鉄鉱床に分類され、海嶺において生成した鉱床である。本地域は日本に分布する合銅硫化鉄鉱床区の中で最も密集した地域である。岬先端部の旧三崎町で最も大きな鉱山は高浦鉱山であり、大正から昭和40年の閉山までに20万t以上の鉱石を出鉱した。</p> <p>鉱体の厚さは3m以内であり、一般に含銅率の低い塊状あるいは縞状硫化鉄鉱であるが、珪質鉱石には高品位鉱石が伴われていた。現在は高浦鉱山には若干の鉱山施設が残っているだけである。その他、旧三崎町には向灘鉱床、二名津鉱床、足谷鉱床、御三崎鉱床などが緑色片岩中に胚胎しており、鉱石は黄銅鉱、黄鉄鉱からなる。ズリ山は向灘鉱山で見られるのみである。</p> <p>岬の中部域の旧瀬戸町においても平ばや鉱床、大久鉱床、足成鉱床、大江鉱床などがある。平ばや鉱床は明治28年ころから多くの出鉱があり、一時は斑銅鉱、輝銅鉱、自然銅などの高品位銅鉱石を産した。岬の基部に位置する旧伊方町には、成安鉱山、九町鉱山、二見鉱山、大成鉱山、鯛ノ浦鉱山などがある。成安鉱山はこの地域最大の鉱山であり、層状鉱体を切る塊状黄銅鉱を産した。一部にはマンガン鉱床も伴われている。九町鉱山も大規模な鉱床であり、やはり塊状黄銅鉱を伴っていた。</p> <p>現在、佐田岬半島一帯の鉱山施設はほとんど残存していない。多くの鉱山跡は鉱床採掘に伴って出たズリ石からその存在が分かる程度である。</p>

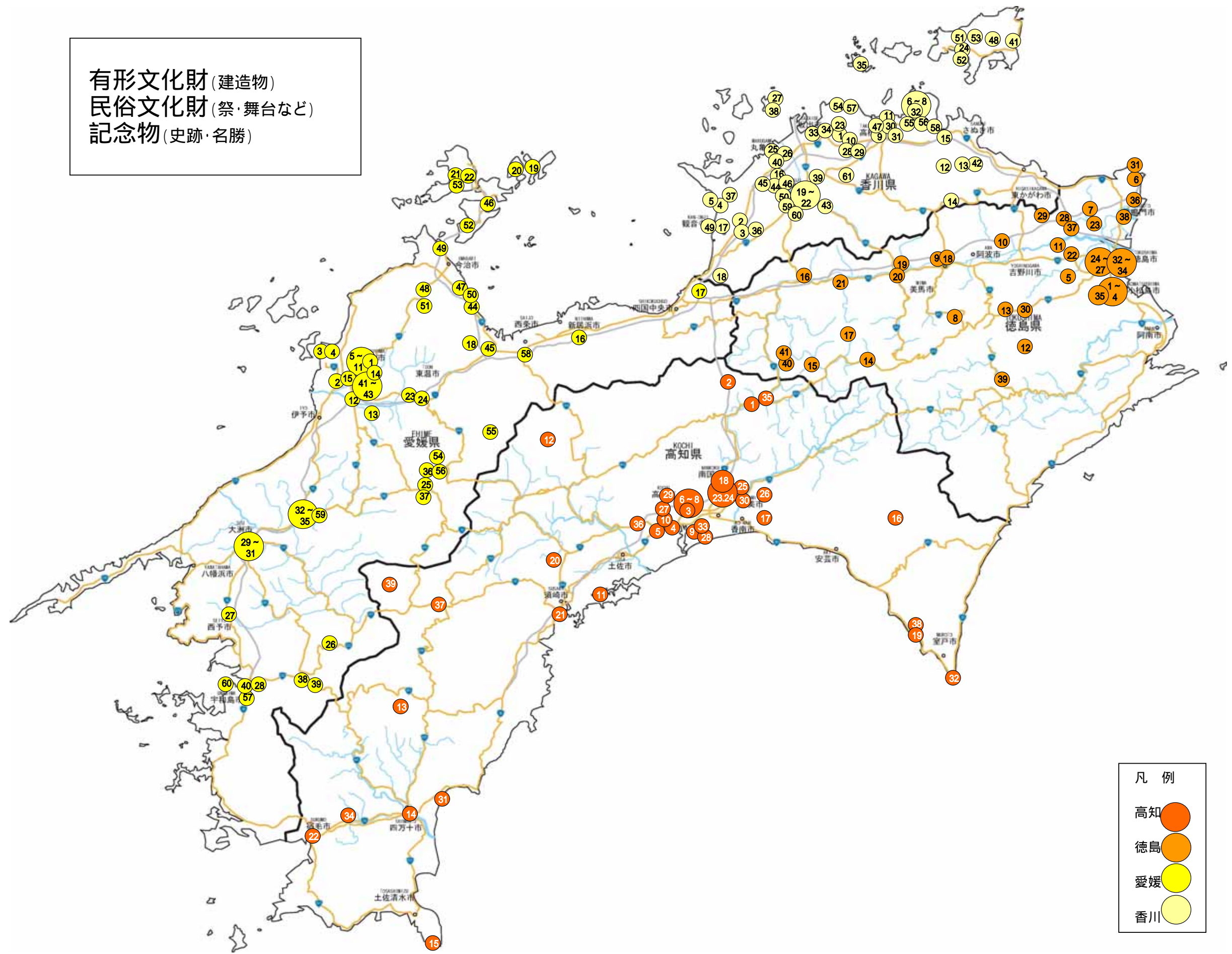
地質資源（高知県）

No.	名称	所在地	地域の概要
1	見残し海岸	土佐清水市	四万十累層群の中新生三崎層群の浜益層が分布する。広く露出した層理面には大小様々なタフォニが発達し、造形美を作っている。蜂の巣城、渦巻き岩、人魚御殿は規模が大きい。
2	土佐湾南西海岸の海成段丘	幡多郡黒潮町～土佐清水市 (伊の岬周辺～足摺岬周辺)	土佐佐賀以南から足摺にかけて土佐湾の南西岸を取り巻いて、海岸段丘が分布している。明瞭な段丘面はM面と呼ばれ、形成時期は約14万年前の海進に伴って形成されたと考えられる。
3	横浪メランジュのチャート断崖とクリーブ	土佐市～須崎市(横浪半島)	横浪半島には横浪メランジュと呼ばれている付加体の混在岩が分布している。半島の東に位置している五色ノ浜に下りると、五色ノ浜は石浜で、円礫には横浪メランジュを構成する岩石のすべてがある。五色ノ浜を西に進むと、砂岩・石灰岩・玄武岩・チャートなどの大小の岩塊が泥岩に取り込まれている。これを混在岩(メランジュ)という。砂岩は膨張を繰り返す長い板状岩塊や孤立したレンズ状岩塊を形成している。混在岩を観察しながら西に進んでいくと、赤色チャートの大岸壁にでる。赤色を呈するチャートとうすい多色泥岩とが互層をなす層状チャートである。このチャートも地質図オーダーで見ると泥岩の中に取り込まれた巨大な岩塊であることがわかる。このチャートの岸壁にたどり着くまでの間で、崖の上から1～3mの大きなチャート岩塊が多数転がり落ちている所がある。これらの岩塊群の崩壊発生地を見上げてみると、層理面と節理を使って海岸側に傾斜しているチャートの傾動構造がある。チャートの層理面が高角度であったために、重力の作用で海岸側に傾いたもので、岩盤クリーブと呼ばれる崩壊前の前兆現象である。
4	行当岬の四万十累層群の堆積構造	室戸市元	岬の北西、新村の漁港の北から不動岩にかけて、四万十累層群の古第三系が海岸に広く露出している。地層の走行がENEで急傾斜であるために、地層は海岸に向かって延びている。砂優勢層に挟まれて泥岩勝ちの砂岩泥岩互層が広く分布する領域がある。この泥岩勝ち砂岩泥岩互層は複雑な形態をもつ根無し褶曲が多数発達する海底地すべり堆積物が含まれ、その近傍には、液状化を示す砂岩岩脈が多数貫入している。海底地すべりは地震時に発生したものとと思われる。
5	四万十川河口の砂嘴	四万十市下田 四万十川河口付近	高岡郡津野町の不入山を源流とする全長196kmの四万十川は蛇行を繰り返した末、四万十市中村の市街地を東に望みながら、太平洋に注いでいる。河口部では、北から南に延びる砂嘴が河口幅の2/3ほどを塞ぎ、河川は右岸の端に追いやられている。この砂嘴に守られて、その上流側には掘込み港である下田港が築港されている。
6	室戸の地震隆起地形	室戸市 室戸岬周辺	南海地震は約100年に一度発生しており、地震時に室戸の海岸は1m前後隆起し、その後年6mm前後の速度で沈降するといわれているが、完全に元に戻る前に次の南海地震が発生し、結果として地形は隆起する。室戸ではこのような地震による地殻変動の痕跡が記録されている。
7	室戸の斑礫岩	室戸市 室戸岬周辺	室戸の斑礫岩は、陸棚斜面付近にあった四万十累帯の地層がほぼ水平な状態にある時、層理面に沿って、苦鉄質マグマが貫入定置したものが、後の地殻変動で地層が急傾斜になり斑礫岩体の上面から底面まで観察することができる地質学的に貴重な場所である。
8	手結堀込み港と手結メランジュ	香南市夜須町手結	手結港の南、佛岬から手結岬にかけては、砂・石浜が広がり、多数の珊瑚の遺骸がころがっている。砂・石浜の背後の崖は海成段丘崖で、四万十累層群の白亜紀付加体の地層が分布している。波食浸食によって崩壊が絶えず、海中に転がった岩塊には多数の珊瑚が付着している。
9	仁淀川河口の砂嘴	高知市春野町仁ノ	愛媛県石鎚山を源流とする仁淀川は、全長124km、流域面積1560km ² で、四国第三の規模をもち、土佐湾のほぼ中央部に太平洋に注ぐ。仁淀川では、東から西に流れる沿岸流によって形成された砂嘴が河口幅の1/5ほどを塞ぎ、河川は右岸の端に追いやられている。仁淀川左岸の小河川は砂嘴によって流路が曲げられている。砂嘴は中～細円礫が主体で成層構造が発達している。
10	西分漁港の付加体メランジュ	安芸郡芸西村西分	西分漁港の東の海岸には四万十累帯の白亜紀付加体の地層が分布し、層状チャート・多色頁岩・枕状溶岩・赤色石灰岩といった海底を構成していた岩石が分布している。これらの岩石は赤道付近から海洋プレートに乗って運ばれてきたもので、中国大陸の縁辺まで到着した段階で大陸の大河から運ばれてきた砂や泥からなる堆積物と混じり合い、異地性岩塊として泥質メランジュ中に取り込まれている。
11	足摺白山洞門	土佐清水市足摺岬	白川洞門は足摺岬の西方に位置し、洞門の規模は高さ16m、幅15m、奥行き17mで、花崗岩の洞門としては日本一といわれている。既存の地質図によると、その位置は斑礫岩体の分布地域にはいっているが、岩石は斑礫岩ではなく、中粒(～細粒)花崗閃緑岩(中粒石英閃緑岩)に粗粒花崗岩を狭在する。
12	大岐海岸	土佐清水市大岐	大岐は、沿岸流によって南から運ばれてきた花崗岩起源の砂によって形成された砂嘴が形成され閉塞している。砂嘴にはクロマツやスタジイ、ウバメガシなどが生い茂っている。この砂嘴に沿って大岐浜が発達する。南端に分布する湿地は、砂嘴によって形成された潟湿地である。
13	天狗高原	津野町芳生野乙	天狗高原は、1485mの天狗森を最高峰とする日本三大カルストの一つで四国カルストの東端にあたる。カルスト地形は東西2.5kmの広がりをもつ平坦な尾根部に広がり、溶食を受けた多数のカーレンフィールド群が林立し、数は少ないがドリーネも形成されている。石灰岩の形成時代は石炭紀からブルム紀で、フズリナや腕足貝、珊瑚が産出する。
14	土佐清水市の唐船島の地震隆起地形	土佐清水市浦尻	昭和21年(1946)年12月21日に発生した昭和南海地震による地盤隆起で、唐船島は約80cm隆起し、現在では島の北と南の端には隆起海食台が海面より顔をだしている。唐船島は貴重な地質学の資料とされ、現在は国指定文化財である。
15	土佐湾南東の海成段丘	安芸郡奈半利町西山周辺	室戸岬では、南海地震の時に急激に隆起し、その後緩慢な沈降が続き、そして再び地震による隆起ということを繰り返しており、地震発生時の隆起時の高度から次の地震発生に至るまでの沈降量を引いた値が地殻変動として累積されている。このような隆起と汎世的な海水準変動が組み合わさって、海成段丘面は形成されたと考えられている。
16	日沖の枕状溶岩	室戸市室戸岬町日沖	日沖の海岸には枕状溶岩からなる大小の岩塊が転がっている。最大のは高さ15m以上である。岩塊の源は海成段丘崖上部の泥岩中であり、地震時落石によるものと考えられる。Na含有量の非常に高いアルカリ玄武岩である。

17	竜串	土佐清水市竜串	四万十累層群の中新生三崎層群の竜串層が分布する。走行はN60°E前後で、北西方向に70°以上で急傾斜している。南西側海岸では、地層の伸びが海岸地形の凹凸に現れて、手の指のように複数東北東に突き出している。中粒の厚い砂岩層が主体で所々に薄い泥岩や砂岩泥岩の細互層が数mの厚さで共在している。
18	龍河洞	香美市土佐山田町逆川	前期白亜紀の付加コンプレックスである三宝山ユニットに属する石灰岩岩塊の一つに鍾乳洞である龍河洞は発達している。鍾乳洞は迷路のように広がり、全長4kmに達するといわれている。
19	高瀬地すべり	吾川郡仁淀川町高瀬	仁淀川町(旧仁淀村地域)の地すべりの歴史は古く、特に仁淀川の支流、長者川が流れる長者地区では、古代から大規模な山の崩壊や地すべりが発生してきた。長者川自体、古代からの地すべりの影響で、少なからず流路を変えており、また江戸時代に築かれた堤防は、地すべり対策も一つの目的としていたと考えられる。平成11年7月～8月、集中豪雨のため、高瀬地区の大渡ダム右岸上部に大規模な地すべりが発生、農道や擁壁に亀裂が生じ変移した。高瀬地区は地すべり防止区域に指定されている。
20	長者地すべり	吾川郡仁淀川町長者	仁淀川町(旧仁淀村地域)の地すべりの歴史は古く、特に仁淀川の支流、長者川が流れる長者地区では、古代から大規模な山の崩壊や地すべりが発生してきた。長者川自体、古代からの地すべりの影響で、少なからず流路を変えており、また江戸時代に築かれた堤防は、地すべり対策も一つの目的としていたと考えられる。近代以降の大規模な地すべり災害としては、明治19年(1886)、明治23年(1886)に長者地区で起こった地すべりが甚大な被害を記録している。いずれも台風による大雨が引き金となり、激しい地響きとともに山が崩れ、洪水被害と合わせて多くの家屋や農地が失われた。両年の地すべりによって、寺野、古生寺といった当時の集落では、住み慣れた土地を捨て、集落ごと移転する憂き目に遭っている。
21	西川ほか地すべり	長岡郡大豊町西川	大豊町は、古来より地すべり地帯として知られてきた。古くは幕末、安政の南海地震によって、現在の怒田・八畝地区で地すべりが起こり、南大王川まで土砂が流出したという記録がある。また、現在の西川地区には「大崩」という地名が残っており、いつの時代かは分からないが、大規模な地すべりがあったことが想像できる。
22	牧野植物園	高知市五台山4200-6	昭和33年(1958)に、高知県が生んだ植物学者・牧野富太郎博士の業績を顕彰する施設として、高知市五台山に開園。平成11年11月には「牧野富太郎記念館」が開館し、園地面積を拡張しリニューアルオープンした。園内には博士を生む土壌となった高知県の植物を中心に、博士ゆかりの植物など約3000種が四季を彩っている。特色として、植物園機能と貴重な資料を紹介する展示、研究、生涯学習の場を提供する施設などを収めた博物館が同居する総合施設は、国内では他に例がないと思われる。
23	高知大学海洋コア総合研究センター	南国市物部乙200	海洋コア総合研究センターは、海洋コアの総合的な解析を通して、地球環境変動要因の解明や海洋底資源の基礎研究を行うことを目的として、2000年(平成12年)4月に学内共同教育研究施設として設立された(旧名称:海洋コア研究センター)。センターは、海洋コアの冷蔵・冷凍保管を始めとし、コア試料を用いた基礎解析から応用研究までを、一貫して行うことが可能な研究設備を備える国内唯一の研究機関である。
24	佐川町地質館	高岡郡佐川町甲360番地	ドイツの地質学者エドモンド・ナウマンは、日本の地質を調査研究し、学問として体系づけた最初の人であり、この佐川で世界でも貴重な化石が産出されることから、地球の生い立ちを探る上できわめて重要なポイントとして世界の地質学界に紹介した。以来佐川は「日本地質学の発祥の地」として、地質学を志す人が一度は足を運ぶ「地質のメッカ」として知られるようになった。「佐川地質館」はナウマンの紹介はもちろん、珍しい化石のコレクションが展示され、又高知県の地質、地形など、楽しみながら地球の本質に迫ることができる。
25	横倉山自然の森博物館	高岡郡越知町越知丙737番地12	日本で最も古い地質の横倉山は、4億年以上前のシルル紀のクサリサンゴや三葉虫など日本最古の化石を含む石灰岩が主で、「日本列島の歴史は横倉山にはじまる」といわれている。山中は樹齢数百年の大杉群をはじめとする原生林におおわれ、数多くの種類の植物が自生している。また、横倉山は故牧野富太郎博士の研究の山としても有名。昔、霊場として栄えたこの山には、安徳天皇潜幸を中心とした伝説や史跡、天皇陵墓参考地があり、山全体が幻想的で神秘とロマンに包まれている。このような歴史と自然を生かそうと、世界的な建築家、安藤忠雄の設計で「地球学博物館」をコンセプトに建設を進め、平成9年10月12日に開館した。
26	カルスト学習館	高岡郡津野町芳生野4921-22	標高1400mに連なる四国カルスト県立自然公園の観察と学習の拠点であるこの学習館は、眺望の優れた尾根付近に位置し、目的別に分けられた切妻屋根の3つの棟を雁行させ、周囲の雄大な景観との調和が図られている。自然と共存しながら、人と環境にやさしい施設とするため、木造在来工法をベースとして建てられている。
27	龍河洞博物館	香美市土佐山田町逆川	地球や龍河洞の造られた過程など、鍾乳石が出来る仕組み、洞内外の生物の生態研究、2000年前の古代の生活の様子など、さまざまな分野の資料研究物の展示をしている。
28	横倉山・佐川	高岡郡越知町・佐川町	日本で最も古い地質の横倉山は、4億年以上前のシルル紀のクサリサンゴや三葉虫など日本最古の化石を含む石灰岩が主で、「日本列島の歴史は横倉山にはじまる」といわれている。 ドイツの地質学者エドモンド・ナウマンは、日本の地質を調査研究し、学問として体系づけた最初の人であり、この佐川で世界でも貴重な化石が産出されることから、地球の生い立ちを探る上できわめて重要なポイントとして世界の地質学界に紹介した。以来佐川は「日本地質学の発祥の地」として、地質学を志す人が一度は足を運ぶ「地質のメッカ」として知られるようになった。
29	久礼メランジュ	高岡郡中土佐町久礼	プレート運動により、海底にたまった地層が日本列島に押しつけられてきた付加体の構造がよく解析されている。

文化財

有形文化財(建造物)
 民俗文化財(祭・舞台など)
 記念物(史跡・名勝)



凡例	
高知	●
徳島	●
愛媛	●
香川	●

有形文化財(建造物)・民俗文化財(祭・舞台など)・記念物(史跡・名勝) (徳島県)

No.	区分	種別	名称	所在の場所 ()寄託先
1	重文	建造物	丈六寺本堂(元方丈)	徳島市丈六町丈領32
2	重文	建造物	丈六寺観音堂	徳島市丈六町丈領32
3	重文	建造物	丈六寺三門	徳島市丈六町丈領32
4	重文	建造物	丈六寺経蔵(旧僧堂)	徳島市丈六町丈領32
5	重文	建造物	一宮神社本殿	徳島市一宮町西丁237
6	重文	建造物	福永家住宅(6棟)	鳴門市鳴門町高島字浜中1
7	重文	建造物	宇志比古神社本殿	鳴門市大麻町大谷字山田66
8	重文	建造物	三木家住宅	美馬市木屋平字貫143
9	重文	建造物	旧長岡家住宅	美馬市脇町大字猪尻字西上野34
10	重文	建造物	切幡寺大塔	阿波市市場町切幡字観音129
11	重文	建造物	田中家住宅(11棟)	名西郡石井町藍畑字高畑705
12	重文	建造物	田中家住宅	勝浦郡上勝町大字旭字八重地10-56
13	重文	建造物	栗飯原家住宅	名西郡神山町下分字栗生野125
14	重文	建造物	小采家住宅	三好市東祖谷菅生28
15	重文	建造物	木村家住宅	三好市東祖谷釣井107
16	重文	建造物	箸蔵寺(6棟)	三好市池田町州津蔵谷1006,他
17	重伝建		三好市東祖谷山村落合(54棟他)	三好市東祖谷落合の一部32.3ha
18	重伝建		美馬市脇町南町(88棟他)	美馬市脇町南町
19	史跡		段の塚穴(2基)	美馬市美馬町字坊僧363-1,他
20	史跡		郡里麿寺跡	美馬市美馬町字銀杏木26・字願勝寺51,他
21	史跡		丹田古墳	三好郡東みよし町西庄字加茂山222,他・東みよし町加茂1733,他
22	史跡		阿波国分尼寺跡	名西郡石井町石井字尼寺12-1,他
23	史跡		勝瑞城館跡	板野郡藍住町勝瑞字東勝地29-1,他
24	史跡		徳島藩主蜂須賀家墓所((興源寺墓所) 徳島藩主蜂須賀家墓所(万年山墓所))	徳島市下助任町2丁目45-3,他, 徳島市佐古山町諏訪山33-1他
25	史跡		徳島城跡	徳島市徳島町城内
26	重美	考古	袈裟襷文銅鐸	徳島市八百屋町3丁目10(徳島県立博物館)
27	重文	考古	流水文銅鐸	徳島市下助任町4丁目37(徳島県立博物館)
28	重文	考古	突線袈裟襷文銅鐸	板野郡板野町犬伏字平山 徳島県立埋蔵文化財総合センター
29	重文	考古	銅経筒	板野郡上板町神宅字大山4
30	重美	考古	平形銅剣(2口)	名西郡神山町神領字本野間(徳島県立博物館)
31	名勝		鳴門	鳴門市鳴門町土佐泊浦字福池,字大毛
32	名勝		旧徳島城表御殿庭園	徳島市徳島町城内1-9
33	名勝		阿波国分寺庭園	徳島市国府町大字矢野718-1
34	有形民俗		阿波人形師(天狗屋)の製作用具及び製品附販売関係資料(1,107点)	徳島市国府町和田字居内172 徳島市天狗久資料館
35	有形民俗		犬飼の舞台	徳島市八多町八屋67-3
36	有形民俗		鳴門の製塩用具(143点)	鳴門市撫養町南浜東浜170(徳島県立博物館)
37	有形民俗		阿波藍栽培加工用具一式(93点)	板野郡藍住町徳命字前須西172 藍住町歴史館「藍の館」
38	有形民俗		阿波の和三盆製造用具(99点)	板野郡松茂町中喜来字中須20-2
39	有形民俗		坂州の舞台	那賀郡那賀町坂州字広瀬32
40	有形民俗		祖谷の蔓橋	三好市西祖谷山村善徳
41	無形民俗		西祖谷の神代踊	三好市西祖谷山村
42	無形民俗		阿波人形浄瑠璃	徳島市,鳴門市,阿南市,勝浦町,神山町,那賀町,松茂町 資料:文化庁HP、徳島県HPなど

有形文化財(建造物)・民俗文化財(祭・舞台など)・記念物(史跡・名勝) (香川県)

No.	区分	種別	名称	所在の場所
1	国宝	建造物	神谷神社本殿	坂出市神谷町621
2	国宝	建造物	本山寺本堂	三豊市豊中町本山甲1445
3	重文	建造物	本山寺二王門	三豊市豊中町本山甲1445
4	重文	建造物	覚城院鐘楼	三豊市仁尾町仁尾丁845
5	重文	建造物	常德寺円通殿	三豊市仁尾町仁尾丁931-1
6	重文	建造物	屋島寺本堂	高松市屋島東町1808
7	重文	建造物	旧下木家住宅	高松市屋島中町91
8	重文	建造物	旧河野家住宅	高松市屋島中町91
9	重文	建造物	小比賀家住宅(4棟)	高松市御殿町331
10	重文	建造物	国分寺本堂	高松市国分寺町国分2065
11	重文	建造物	高松城(4棟)	高松市玉藻町2-1
12	重文	建造物	長尾寺経幢(2基)	さぬき市長尾西653
13	重文	建造物	旧恵利家住宅	さぬき市大川町富田中3277-1
14	重文	建造物	細川家住宅	さぬき市多和額東46
15	重文	建造物	志度寺(2棟)	さぬき市志度1102
16	重文	建造物	旧善通寺僧行社	善通寺市文京町2-1-1
17	重文	建造物	観音寺金堂	観音寺市八幡町1-2-7
18	重文	建造物	豊稔池堰堤	観音寺市大野原町田野々
19	重文	建造物	旧金毘羅大芝居	仲多度郡琴平町乙1241
20	重文	建造物	金刀比羅宮奥書院	仲多度郡琴平町892-1
21	重文	建造物	金刀比羅宮旭社	仲多度郡琴平町892-1
22	重文	建造物	金刀比羅宮表書院及び四脚門(2棟)	仲多度郡琴平町892-1
23	重文	建造物	白峯寺十三重塔(2基)	坂出市青海町2635
24	重文	建造物	明王寺釈迦堂	小豆郡小豆島町池田4305
25	重文	建造物	丸亀城天守	丸亀市一番丁
26	重文	建造物	丸亀城(2棟)	丸亀市一番丁
27	重伝建		笠島重要伝統的建造物群保存地区	丸亀市本島町笠島
28	特別史跡		讃岐国分寺跡	高松市国分寺町国分上所・高松市国分寺町新居東川西
29	史跡		讃岐国分尼寺跡	高松市国分寺町新居
30	史跡		高松城跡	高松市玉藻町2-1
31	史跡		石清尾山古墳群	高松市峰山町・室町・宮脇町・西春日町・鶴市町・西宝町
32	史跡		屋島	高松市屋島東町・屋島中町・屋島西町の一部・高松町
33	史跡		城山	坂出市西庄町・川津町・府中町・丸亀市飯山町
34	史跡		府中・山内瓦窯跡	坂出市府中町前谷・高松市国分寺町新名空路
35	史跡		喜兵衛島製塩遺跡	香川郡直島町4565,他
36	史跡		二ノ宮窯跡	三豊市高瀬町羽方2172-1
37	史跡		宗吉瓦窯跡	三豊市三野町吉津字宗吉
38	史跡		塩飽勤番所跡	丸亀市本島町泊81
39	史跡		快天山古墳	丸亀市綾歌町栗熊東,他
40	史跡		丸亀城跡	丸亀市一番丁
41	史跡		大坂城石垣石切丁場跡	小豆郡小豆島町岩谷
42	史跡		富田茶臼山古墳	さぬき市大川町富田中3402-3,他
43	史跡		中寺廃寺跡	仲多度郡まんのう町造田,他
44	史跡		有岡古墳群	善通寺市善通寺町・生野町
45	史跡		天霧城跡	善通寺市吉原町・碑殿町、三豊市三野町大見、仲多度郡多度津町奥白方
46	重文	考古	割竹形石棺	善通寺市文京町
47	特別名勝		栗林公園	高松市栗林町1-20-16
48	名勝		神懸山(寒霞溪)	小豆郡小豆島町神懸通
49	名勝		琴弾公園	観音寺市有明町・八幡町
50	名勝		象頭山	善通寺市大麻町・仲多度郡琴平町
51	有形民俗		肥土山の舞台	小豆郡土庄町肥土山
52	有形民俗		池田の棧敷	小豆郡小豆島町池田
53	有形民俗		中山の舞台	小豆郡小豆島町中山
54	有形民俗		瀬戸内海及び周辺地域の漁撈用具(2843点)	高松市亀水町
55	有形民俗		讃岐及び周辺地域の砂糖製造用具(937点)と砂糖しめ小屋・釜屋(3棟)	高松市屋島中町
56	有形民俗		讃岐及び周辺地域の醤油醸造用具(5577点)と醤油蔵麹室(3棟)	高松市屋島中町
57	有形民俗		瀬戸内海の船図及び船大工用具(2813点)	高松市亀水町
58	有形民俗		牟礼・庵治の石工用具(791点)	高松市牟礼町
59	有形民俗		金毘羅庶民信仰資料(1725点)	仲多度郡琴平町
60	無形民俗		綾子踊	仲多度郡まんのう町佐文
61	無形民俗		滝宮の念仏踊	綾歌郡綾川町

資料:文化庁HP、香川県HPなど

有形文化財(建造物)・民俗文化財(祭・舞台など)・記念物(史跡・名勝) (愛媛県)

No.	区分	種別	名称	所在の場所
1	国宝	建造物	石手寺二王門	松山市石手2丁目
2	国宝	建造物	大宝寺本堂	松山市南江戸5丁目
3	国宝	建造物	太山寺本堂	松山市太山寺町
4	重文	建造物	太山寺二王門	松山市太山寺町
5	重文	建造物	石手寺本堂	松山市石手2丁目
6	重文	建造物	石手寺三重塔	松山市石手2丁目
7	重文	建造物	石手寺鐘楼	松山市石手2丁目
8	重文	建造物	石手寺詞梨帝母天堂	松山市石手2丁目
9	重文	建造物	石手寺護摩堂	松山市石手2丁目
10	重文	建造物	浄土寺本堂	松山市鷹子町
11	重文	建造物	伊佐爾波神社(4棟)	松山市桜谷町
12	重文	建造物	豊島家住宅(7棟)	松山市井門町
13	重文	建造物	渡部家住宅(4棟)	松山市東方町
14	重文	建造物	道後温泉本館(4棟)	松山市道後湯之町
15	重文	建造物	松山城(21棟)	松山市丸之内
16	重文	建造物	旧広瀬家住宅(7棟)	新居浜市上原2丁目
17	重文	建造物	真鍋家住宅	四国中央市金生町山田井
18	重文	建造物	興隆寺本堂	西条市丹原町古田
19	重文	建造物	定光寺観音堂	越智郡上島町土生
20	重文	建造物	祥雲寺観音堂	越智郡上島町岩城
21	重文	建造物	大山祇神社本殿(宝殿)	今治市大三島町宮浦
22	重文	建造物	大山祇神社拝殿	今治市大三島町宮浦
23	重文	建造物	医王寺本堂内厨子	東温市北方
24	重文	建造物	三島神社本殿	東温市則之内
25	重文	建造物	旧山中家住宅	上浮穴郡久万高原町上黒岩
26	重文	建造物	善光寺薬師堂	北宇和郡鬼北町小松
27	重文	建造物	旧開明学校校舎	西予市宇和町卯之町
28	重文	建造物	宇和島城天守	宇和島市丸之内
29	重文	建造物	大洲城三の丸南隅櫓	大洲市大洲
30	重文	建造物	大洲城(3棟)	大洲市大洲
31	重文	建造物	如法寺仏殿	大洲市柚木
32	重文	建造物	上芳我家住宅(10棟)	喜多郡内子町内子
33	重文	建造物	本芳我家住宅(4棟)	喜多郡内子町内子
34	重文	建造物	大村家住宅(2棟)	喜多郡内子町内子
35	重伝建		内子町八日市護国伝統的建造物群保存地区	喜多郡内子町内子字正木・字ワケノオカ・字古町の各一部、城廻岡・清正の各一部
36	重文	建造物	岩屋寺大師堂	上浮穴郡久万高原町七島
37	史跡		上黒岩岩陰遺跡	上浮穴郡久万高原町上黒岩
38	史跡		等妙寺旧境内	北宇和郡鬼北町
39	史跡		河後森城跡	北宇和郡松野町松丸
40	史跡		宇和島城	宇和島市丸之内
41	史跡		久米官衙遺跡群・久米官衙遺跡・来住廃寺跡	松山市来住町・南久米町
42	史跡		湯築城跡	松山市道後公園
43	史跡		松山城跡	松山市堀之内
44	史跡		永納山城跡	西条市河原津・今治市孫兵衛作、他
45	史跡		法安寺跡	西条市小松町北川
46	史跡		能島城跡	今治市宮窪町宮窪
47	史跡		伊予国分寺塔跡	今治市国分
48	国宝	考古	伊予国奈良原山経塚出土品	今治市玉川町大野
49	名勝		波止浜	今治市波止浜・波方町
50	名勝		志島ヶ原	今治市桜井浜
51	名勝		千疋のサクラ	今治市玉川町鈍川
52	名勝		八幡山	今治市吉海町
53	名勝		大三島	今治市大三島町
54	名勝		古岩屋	上浮穴郡久万高原町直瀬
55	名勝		面河溪	上浮穴郡久万高原町
56	名勝		岩屋	上浮穴郡久万高原町七島
57	名勝		天赦園	宇和島市天赦公園
58	名勝		保国寺庭園	西条市中野
59	有形民俗		内子及び周辺地域の製蠶用具(1,444点)	喜多郡内子町
60	無形民俗		伊予神楽	宇和島市及び北宇和郡の漁村一帯

資料:文化庁HP、愛媛県HPなど

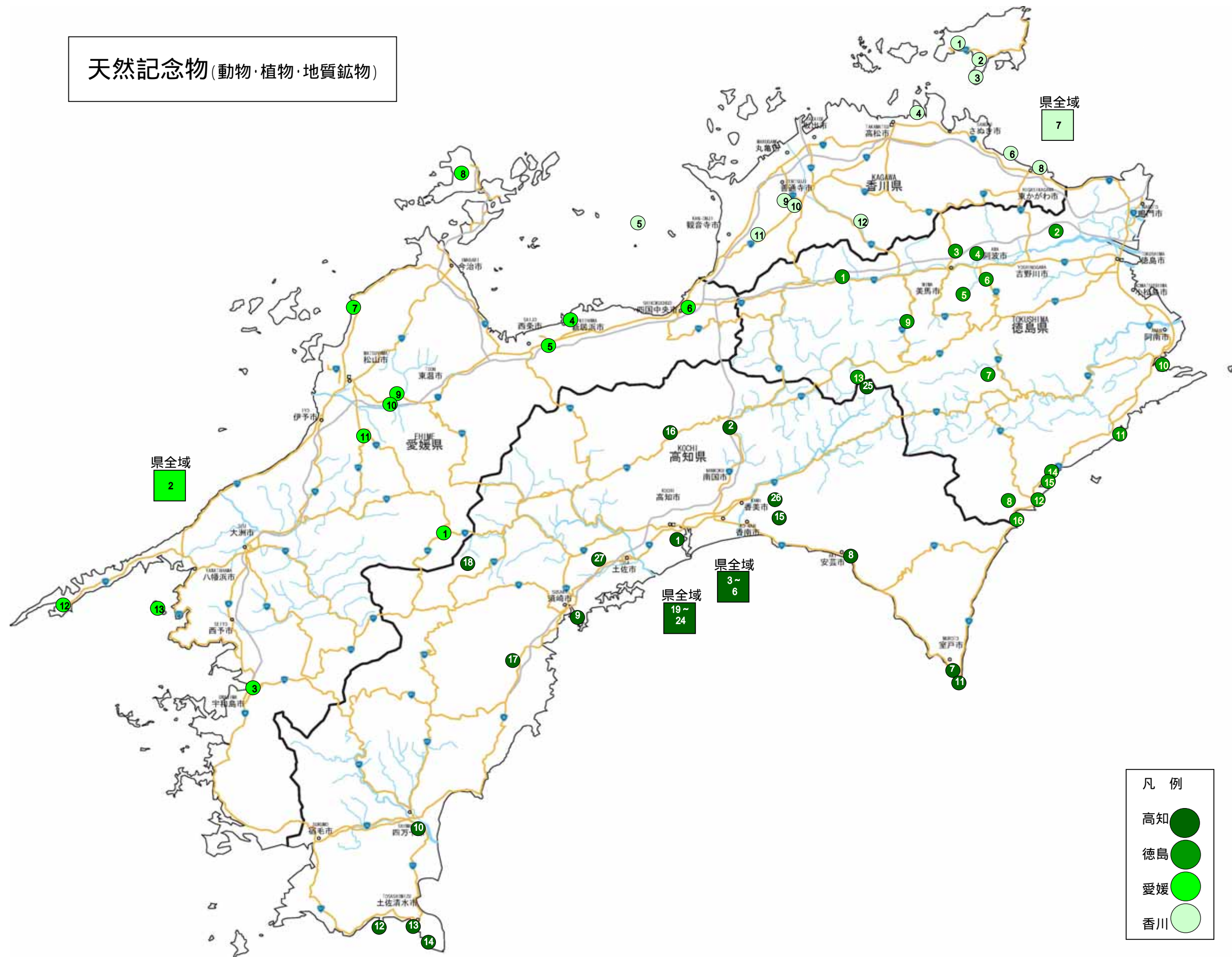
有形文化財(建造物)・民俗文化財(祭・舞台など)・記念物(史跡・名勝) (高知県)

No.	区分	種別	名称	所在の場所
1	国宝	建造物	豊楽寺薬師堂	長岡郡大豊町寺内
2	重文	建造物	旧立川番所書院	長岡郡大豊町立川
3	重文	建造物	関川家住宅	高知市一宮
4	重文	建造物	旧山内家下屋敷長屋	高知市鷹匠町
5	重文	建造物	朝倉神社本殿	高知市朝倉
6	重文	建造物	土佐神社本殿、幣殿及び拝殿	高知市一宮
7	重文	建造物	土佐神社鼓楼	高知市一宮
8	重文	建造物	土佐神社楼門	高知市一宮
9	重文	建造物	竹林寺(本堂)	高知市五台山
10	重文	建造物	高知城	高知市丸ノ内
11	重文	建造物	鳴無神社社殿	須崎市浦ノ内
12	重文	建造物	山中家住宅	吾川郡いの町越裏門
13	重文	建造物	旧竹内家住宅	高岡郡四万十町野々川
14	重文	建造物	不破八幡宮本殿	四万十市不破
15	重文	建造物	吉福家住宅	土佐清水市松尾
16	重文	建造物	金林寺薬師堂	安芸郡馬路村馬路
17	重文	建造物	安岡家住宅	香南市香我美町山北
18	重文	建造物	国分寺金堂	南国市国分
19	重伝建		室戸市吉良川町伝統的建造物群保存地区	室戸市吉良川町字東町、字西町及び字西松原の各一部
20	史跡		不動が岩屋洞窟	高岡郡佐川町
21	史跡		土佐藩砲台跡	須崎市須崎
22	史跡		宿毛貝塚	宿毛市宿毛
23	史跡		土佐国分寺跡	南国市国分
24	史跡		比江麿寺塔跡	南国市比江
25	史跡		谷重遠墓	香美市土佐山田町植
26	史跡		龍河洞(洞穴遺跡)	香美市土佐山田町逆川
27	史跡		高知城跡	高知市丸ノ内
28	史跡		武市半平太旧宅及び墓	高知市仁井田
29	重美	考古	太刀銘吉房	高知市
30	重美	考古	袈裟禪文銅鐸(2口)	香美市香北町
31	名勝		入野松原	幡多郡黒潮町
32	名勝		室戸岬	室戸市室戸岬町
33	名勝		竹林寺庭園	高知市五台山
34	有形民俗		浜田の泊屋	宿毛市山奈町芳奈
35	有形民俗		土佐豊永郷及び周辺地域の山村生産用具	長岡郡大豊町
36	有形民俗		八代の舞台	吾川郡いの町八代
37	有形民俗		高野の舞台	高岡郡津野町高野
38	無形民俗		吉良川の御田祭	室戸市吉良川御田八幡宮
39	無形民俗		土佐の神楽	高岡郡檮原町他6市町村

資料:文化庁HP、高知県HPなど

天然記念物

天然記念物(動物・植物・地質鉱物)



- 凡例
- 高知 ●
 - 徳島 ●
 - 愛媛 ●
 - 香川 ○

天然記念物(動物・植物・地質鉱物) (徳島県)

区分	種別	名称	所在の場所	
国	特天記	加茂の大クス	三好郡東みよし町加茂1482	この巨木は、クスノキの典型的な半球状の樹相をしており、見通しのよい平坦な水田地帯に風格のある美しい姿で悠然と立っていて、遠くからの眺めもすばらしい。根周り19m・幹周り13mで、地上3mあたりから十数本の太い枝を四方に伸ばしている。枝張り東西49m・南北41m、樹高25m、樹齢1,000年以上。
国	天記	乳保神社のイチョウ	板野郡上板町瀬部字西井内(乳保神社境内)	気根の垂れた樹齢千年にもなる神木で、古くより信仰の対象となっている。
国	天記	阿波の土柱	阿波市阿波町北山540、桜ノ岡468・470・472・473	土柱は阿波町から脇町一帯にかけて見られるが観光地として整備されているのは『波瀟ヶ嶽』と呼ばれるエリアとなっている。遊歩道は土柱の頂上から下まで、エリアを一周できるコースになっている。
国	天記	野神の大センダン	阿波市阿波町野神	風格のある主幹が大きな盆栽のようにこの樹を形作っている。根幹下部は大人一人がしゃがむとすっぽり入れる位の空洞となっている。
国	天記	船窪のオノツツジ群落	吉野川市山川町奥野井387-11	『高越山』(標高1133m)の1050m付近から『奥野々山』(標高1160m)にかけての峰筋に、船底型の窪地に当たる地域があり、一帯に約1200株のツツジ類が群生している。
国	天記	美郷のホタル及びその生息地	吉野川市美郷全域(川田川支流とその周辺)	『美郷庁舎』周辺から川田川、またその支流のやや上流にかけてがホタルの生息地である。
国	天記	沢谷のタヌキノシヨクダイ発生地	那賀郡那賀町沢谷大字亀井谷34-1	日本とブラジルにのみ生息する腐生植物。天然記念物の保護管理がなされているので立ち入ることができない。
国	天記	鈴が峰のヤッコソウ発生地	海部郡海陽町大字久保字板取238	この地域は、シイを主体とする常緑広葉樹林でおおわれ、極相植生の残存林である。とくに林床には、シイの根に寄生するヤッコソウの発生が著しいだけでなく、シロシャクジョウ、ホンゴンソウなどきわめて珍しい腐生植物が多数生育するなど、きわめて特異な植物分布地として、学術上の価値は高い。
国	天記	赤羽根大師のエノキ	美馬郡つるぎ町一字字蔭103-2他	樹高18m、幹周8.7mに達するエノキの巨木(日本最大)。尾根に大きく枝を広げた樹形は良好であり、樹幹は筋骨の盛り上がった巨象の脚のような感と相まって、全体として古木の観を示している。すぐ脇には赤羽根大師堂が建てられ、地域住民が集まる場となっている。赤羽根大師堂は寛政4年(1792)開基。
国	天記	弁天島熱帯性植物群落	阿南市橋町小勝186	『橋湾』に浮かぶ小島。『阿南発電所』、『日本電工』の裏手になり、防波堤から50～100mの所にある。
国	天記	大浜海岸のウミガメ及びその産卵地	海部郡美波町日和佐浦(大浜海岸一帯)	アカウミガメの産卵地で有名。毎年5月から8月にかけて上陸が見られ、今年も26頭が上陸した模様。年始には初日の出を見に来る人でもにぎわいを見せる。
国	天記	母川のオオウナギ生息地	海部郡海陽町高園母川(せり割り岩より上下流2km)	海部川との合流地点から川上へ2km余りの区域に、川が蛇行し、森林の生い茂ったあまり日の当たらない場所がある。その区域が生息地である(“せり割り岩”周辺)。40年くらい前までは多数生息が確認されていたが、近年は見られない
国	天記	三嶺・天狗塚のミヤマクマザサ及びコメツツジ群落	三好市東祖谷山村三嶺・天狗塚	三嶺から天狗塚に至る尾根筋一面にミヤマクマザサが密生し、その中にコメツツジが斑状群落を形成している。共生する規模は国内有数とされ、紅葉した姿も良い。自然の雄大さを感じる。
国	天記	出羽島大池のシラタマモ自生地	海部郡牟岐町牟岐浦出羽島	中世代の白亜紀、約1億4千万年前に繁殖した海藻で、生物が海から陸へ移行する途上の形質として極めて貴重な学術資源である。現在では北アフリカのリビア、インド洋のモーリシャス島、太平洋のニューカレドニアと日本では出羽島の大池にしかない。
国	天記	津島暖地性植物群落	海部郡牟岐町大字牟岐浦字馬地	周囲約1.5kmの無人の小島に暖地性植物群落が自生。北限の垂熱帯植物もある。
国	天記	穴喰浦の化石漣痕	海部郡海陽町穴喰浦字古目	穴喰の化石漣痕は、四万十帯古第三系の砂岩泥岩互層に見られる。漣痕は砂岩層の上面に形成される魚の鱗のような堆積構造で、通常は水深50cm程度で波が干渉するような水底で舌状に形成されるものである。

資料:文化庁HP、徳島県HPなど

天然記念物(動物・植物・地質鉱物) (香川県)

No.	区分	種別	名称	所在の場所	概要
1	国	特天記	宝生院のシンパク	小豆郡土庄町上庄中筋472-3(宝生院)	樹名がシンパクとあるが、ビャクシンのことで、日本最大のビャクシンと断言しても良いであろう。2株に分かれて成長したものか、株立ちであるか定かではないが、あまりにも大きく成長したため、自重に耐えかねて幹が剥離し、株立ち状になったものかもしれない。根回りの周囲は16mほどの大きさを誇っており、ビャクシンとしては破格の大きさである。ビャクシンの巨樹は、そのほとんどに樹勢の弱りが見られるものが多いが、このビャクシンはまだ元気で、いまだ成長途上であるかのようにだ。普段見かけのビャクシンとは全くその規模が違うもので、これほどまでに大きくなる樹種であることは驚きでもある。もし日本三大巨樹を選定するならば、この木も有力な一本であろう。
2	国	天記	誓願寺のソテツ	小豆郡小豆島町二面571(誓願寺)	この樹は誓願寺の境内にあり、樹齢500年以上といわれ、株周り8.1m、樹高7.5mの雌樹で樹勢は現在も旺盛である。伝説によれば、元禄時代にこの地に回船業を営む塩屋金八なる人物が南九州方面から持ち帰り誓願寺に寄贈したものとされている。
3	国	天記	皇子神社社叢	小豆郡小豆島町神浦外浜甲680ほか(皇子神社)	神浦の海岸から北方に突出する標高60m、傾斜約25度の円錐形の丘陵、権現岬全体からなる。
4	国	天記	屋島	高松市屋島西町・屋島中町・屋島東町・高松町	屋島は、およそ1,200万年前の中期中新世に火山活動により噴出した溶岩が水平に流れ出したものが、その後、周囲と上部が開析を受けて台地状の地形が形成されたもので、メサの標式的地形として知られている。基盤は花崗岩、中腹から上部が凝灰岩または角礫凝灰岩、最上部が讃岐岩質安山岩で構成されており、最上部の安山岩の水平方向に発達した柱状節理の露頭部は、厚さ2~5cmの板が積み重なったように見えるため、「畳石」と名付けられ、見どころの一つである。
5	国	天記	円上島の球状ノースライト	観音寺市伊吹町円上乙170	観音寺港の北西20kmの海上にある鐘状の小島「円上島」には、別名菊花石とも呼ばれる球状ノースライトがある。白色の斜長石と紫色の紫蘇輝石の織りなす模様が菊の花を見るように美しく、直径8cmに達する大きな物もある。
6	国	天記	絹島および丸亀島	東かがわ市馬篠・小磯地先沖	絹島は馬篠の鼻から約600mの海上に浮かぶ小島。全山、黒色の讃岐岩質安山岩の島。矢竹が生い茂り、島周りは柱状節理や波蝕の洞が発達し、断崖を成す。その東方、約1200mの海上に浮かぶ小島はビュートの島・丸亀島。島の岩石構成は絹島に似ている。そばに女島が寄り添う。県道122号線の車道から絶景を望むことができる。
7	国	天記	烏骨鶏	香川県一円	
8	国	天記	鹿浦越のランプロファイア岩脈	東かがわ市松原	鹿浦越のランプロファイア岩脈は、白色の花崗岩中に黒色のランプロファイアが岩脈として貫入している。ランプロファイア岩脈がこれほど密集し、しかも奇観を呈しているのは珍しい。
9	国	天記	琴平山(象頭山)	善通寺市大麻町・仲多度郡琴平町	琴平山(別名:金毘羅山)とその隣にある象頭山(標高538m)とは、山頂差が少なく、この二山をまとめて象頭山(ぞうずさん)とも呼ばれる。古い溶岩台地が侵食されてきたメサ。「象頭山」の名は、琴平街道から眺めた山容が象の頭を思わせることから付いたという。
10	国	天記	琴平町の大センダン	仲多度郡琴平町129-1	センダンは、暖地の落葉高木で、初夏に紫色の花をつけ、果実は黄色に熟す。琴平町の大センダンのように、市街地であって美しい樹姿を保っている老大樹は全国的にも貴重である。
11	国	天記	菅生神社社叢	三豊市山本町辻西側1433-1(菅生神社)	西讃の平野地域で、このような自然林約1.8haが、今日保護保全されていることは大変貴重である。この社叢は古い時代の植生、原始林相を残しており、植物の種類も木本・竹本類約100種類以上と、シダ・コケ類も多く、温暖帯性の照葉樹が主体である。カンザブロウノキ、ミズバイ、ツブラジイ、シダジイ、モッコク、カクレミノなどの珍しい種類が多く、ともに安定した状態を保ち、香川県西部の植生を知る上で、学術的にも極めて貴重な樹林である。
12	国	天記	天川神社社叢	仲多度郡まんのう町造田一本杉3433、仲多度郡まんのう町造田歯染尾3427-4(天川神社)	原生林の様相を呈するうっそうたる社叢である。高木層にはスギの大樹(樹高31m・胸高幹周6.7m)をはじめ、アカマツ、クスノキ、ツブラジイ、シリブカガシ、タマミズキ、ヤマザクラ、イロハカエデなどが混生し、亜高木層、低木層には、イヌガシ、クロバイ、ナンテン、ジュズネノキ、リンボク、イズセンリョウなどがある。シダ、コケ類は、県下屈指の豊富さである。

資料:文化庁HP、香川県HPなど

天然記念物(動物・植物・地質鉱物) (愛媛県)

No.	区分	種別	名称	所在の場所	備考
1	国	特天記	八釜の甌穴群	上浮穴郡久万高原町柳井川	硬い岩盤上に多数の甌穴群が約80mにわたって分布する。甌穴は、流路にほぼ平行な4~5列の群にわけられる。中央部に並ぶ8個の甌穴(八釜)は最大径10mに達する巨大甌穴がほぼ等間隔でやや千鳥足状に並んでいる。甌穴は上流側が入り込んでおり、内には甌穴を削った礫が入っている。洪水時に甌穴に入る水の入出路の窪みが見られる他、甌穴内を削った、らせん状の水流が残した模様もよく観察できる。
2	国	特天記	カワウソ	地域を定めず指定	
3	国	天記	八幡神社のイブキ	宇和島市伊吹町	樹齢およそ800年の2本のイブキの巨木が拝殿前にそびえており、源義経が家臣の鈴木三郎に植えさせたという伝説がある。
4	国	天記	新居浜一宮神社のクスノキ群	新居浜市一宮町1丁目	一宮神社の参道、社殿の周囲に総数90本のクスがある。そのうち目通り9.4メートルのもの1本、7メートル以上のも2本、6メートル以上のも4本あり、目通り1メートル以上のもは前記のものを合わせて53本に達する。このクス群は自生ではないが植樹の古いものとして保存の必要がある。
5	国	天記	王至森寺のキンモクセイ	西条市飯岡	この種類としては珍しい巨木で、高さが16mにもとどき、秋、赤みをおびた黄色い花を咲かせる。秋の実りをもたらす「黄金の花」として珍重され、開花自には枝いっぱい星のような花をつけ、一里四方にその高貴な香りを漂わせる。
6	国	天記	下柏の大柏(イブキ)	四国中央市下柏町	下柏の大柏は樹高15m、根周り14.3m、目通り幹周り8.34mで、樹齢は1200年と伝えられる。主幹の東側に空洞があり、天明3年(1783年)に地藏菩薩が安置され、それ以後信仰の対象となっている。
7	国	天記	エヒメアヤマ自生南限地帯	松山市下難波	こかきつばたの名でこのように歌われた腰折山の可憐な花は、こかきつばたとは別種の牧野富太郎によって命名されたエヒメアヤマである。エヒメアヤマはアヤマ科の植物であって、根茎はやや偏平で細くやせ形、葉は線形で薄く、葉長は10cm~15cmが普通である。陽春四月上旬を開花期とし、数cmの高さの花軸に普通1花を、時に2~3花を咲かせる。花色はうすい紫色で外花蓋(がいかがい)には黄白色のはん点を持っている。元来大陸北部に分布する植物で、我が国では中国、九州、四国の瀬戸内海に沿う各地に生育し、古書に「たれゆえそう」と名づけられたと記録されている。腰折山はその南限地帯として世に知られ、古くからこの花にまつわる哀れな民話とともに、「こかきつばた」の名で親しまれてきた。昭和43(1968)年、宮崎県えびの高原霧島盆地の自生が最南限にあたるものとして追加指定をうけ、エヒメアヤマ自生南限地帯は2県以上にわたるものとされている。
8	国	天記	大山祇神社のクスノキ群	今治市大三島町宮浦	目通り1m以上のも38本、1m以下のも数百本群生しておりその最大のもは拜殿の正中に立ち根回り20m、目通り11m、高さ15.6m、神木として伝えられている。根株がことに美しく樹勢きわめて旺盛である。
9	国	天記	北吉井のビャクシン(イブキ)	東温市樋口	根回り7m、地上1mで二幹となり、それぞれ目通り周囲4m、樹高は20mに達し、枝張りには径12mにもおよび、代表的巨樹の一つ。
10	国	天記	オキチモズク発生地	東温市吉久	吉久のお吉泉から流れる小川で昭和13年、八木繁一によって発見された。淡水産ベニモズク科に俗する紅藻の一珍種。紫紅色で柔軟な円柱状の身体は数多く分岐し、20~30cmになり、毎年晩秋のころ発芽して、翌年3月ごろ胞子を生じて消失する。
11	国	天記	砥部衝上断層	伊予郡砥部町岩谷口	砥部衝上断層は、砥部町でみられる中央構造線の露頭。古い地層が新しい地層の上に重なった逆断層が、砥部川の流れて洗い出され、砥部川に対してほぼ直角に横切るように露頭しているのを目にすることができる。断層は1,200万年~1,400万年前の地殻変動によって形成されたものと推定されている。
12	国	天記	三崎のアコウ	西宇和郡三崎町三崎	三崎市街地のフェリー埠頭からほど近いところに4本のアコウが生育する。写真の一番手前のものが最大で、もう幹周り云々という次元では語るこのでない樹であろう。アコウはクワ科の植物で、沖縄などに見られるガジュマルなどと同様、幹から気根と呼ばれる根を垂らし、タコの木などと呼ばれることもあるという。三崎のアコウは日本最北端自生のアコウとして、天然記念物の指定を国から受けている。
13	国	天記	八幡浜市大島のシュードタキライト及び変成岩類	八幡浜市大島	シュードタキライトは断層面に形成された黒色ガラス質の脈状の岩石で急激な断層運動が起こったときに岩盤が摩擦熱によって溶け、それが急冷してできる。溶ける温度は1,000度以上に達する。このような断層は地下の深いところで地震が発生するときの急激な岩盤の破壊作用によって形成される。シュードタキライトは古い時代の震源が隆起して現れたことを示すもので、地震の化石と呼ばれる。大島のシュードタキライトは本島南端部に約500mに渡って分布する大島変成岩の中のみ見られる。これを含む断層帯は3帯あり、北側のものほど後の断層運動による変形が強い。それぞれ、幅2~3m、長さ約10~50m、わが国では最大級のものである。

資料:文化庁HP、愛媛県HPなど

天然記念物(動物・植物・地質鉱物) (高知県)

No.	区分	種別	名称	所在の場所	
1	国	特天記	高知市のミカドアゲハ及びその生息地	高知市天神町・筆山町・潮江	ミカドアゲハは、体長約4.5cm、主として南九州地方に分布し、黒の地色に淡水青色の斑紋をもつ美しい蝶。オガタマノキの葉の上に産卵し、5月下旬ごろ最も多く見られる。
2	国	特天記	杉の大スギ	長岡郡大豊町杉(八坂神社境内)	樹齢2000～3000年とも言われ、南北の2株が根本で合着し、夫婦スギの愛称で親しまれている。南の大スギは根まわり20m、樹高60m。北の大スギ根まわり16.5m、樹高56m。
3	国	特天記	ニホンカモシカ	地域を定めず指定	
4	国	特天記	カワウソ	地域を定めず指定	
5	国	特天記	土佐のオナガドリ	地域を定めず指定	
6	国	天記	ヤマネ	地域を定めず指定	
7	国	天記	タチバナ	室戸市室戸岬町	タチバナは日本に自生する唯一のミカン(ミカン科の常緑小高木)。天然記念物指定当時に比べて、個体数は減少傾向で、調査が必要。
8	国	天記	伊尾木洞のシダ群落	安芸市伊尾木	伊尾木洞は高さ40mほどの海岸段丘崖に口を開ける石灰洞門。ホウライシダ・ホウビシダ・ノコギリシダ等の種類のシダが1ヶ所に共生している。
9	国	天記	大谷のクス	須崎市大谷(須賀神社)	樹高25m 根元の周囲25m 推定樹齢1300年 全国巨木百選の第9位に選ばれている。
10	国	天記	八束のクサマルハチ自生地	四万十市山路(曾我神社境内)	クサマルハチはヘゴ科のシダ植物。幹をつくらないため、ヘゴ科としては珍しく木生とならない。湿潤な土地を好む。
11	国	天記	室戸岬亜熱帯性樹林及び海岸植物群落	室戸市室戸岬町	日本の亜熱帯性植物区系の北限地で四国唯一の亜熱帯性植物分布地。代表的な植物:アコウ・アオギリ・ウバメガシ・ナチシダ等。
12	国	天記	千尋岬の化石漣痕	土佐清水市美三崎南千尋	化石漣痕は千尋岬先端の朴海岸で90枚以上確認されており、この付近一帯は漣痕のできる好条件を備えているといえる。
13	国	天記	唐船島の隆起海岸	土佐清水市清水浦尻字唐船山379番地	土佐清水市街の南東約1.5km、土佐清水港北東の唐船島海岸には、波打ち際の岩盤の側面に、昭和21(1946)年12月21日の南海大地震によって隆起した旧汀線の跡が、貝殻の付着した線になって、はっきり残っている。
14	国	天記	松尾のアコウ自生地	土佐清水市松尾	松尾神社には、アコウが巻きついた木が枯死してしまい、アコウが空洞をつくった形になっている巨木がある。
15	国	天記	天神の大スギ	香南市香我美町上分尾の上(山南天満宮)	香南市香我美町の南西部、山南天満宮の境内にあるコウチスギの巨木。推定樹齢800年。根回り16.7m、樹高約50m。
16	国	天記	平石の乳イチョウ	土佐郡土佐町平石	樹高43.0m、目通り周囲7.8m、推定樹齢800年。日本一の大イチョウ。
17	国	天記	仁井田のヒロハチシャノキ	高岡郡四万十町魚ノ川	樹齢700年以上。根回り8.5m、幹囲4.8m、樹高14m。ヒロハチシャノキは、暖地の山中にまれに自生する落葉高木で、5月下旬に直径1cmほどの、香りの強い乳白色の花を開き、10月ごろ丸い黄色の実をつける。
18	国	天記	大引割・小引割	吾川郡仁淀川町別枝・津野町芳生野	天狗の森と鳥形山の間点、海拔1100mにあり、白木谷層群(古生代二畳紀)に属する赤褐色のチャート(珪石)にできた2本の亀裂。有史以前の大地震によってできたといわれる学術上貴重なものである。
19	国	天記	蓑曳矮鶏	地域を定めず指定	
20	国	天記	鶉矮鶏	地域を定めず指定	
21	国	天記	土佐犬(四国犬)	地域を定めず指定	
22	国	天記	東天紅鶏	地域を定めず指定	
23	国	天記	軍鶏	地域を定めず指定	
24	国	天記	地鶏	地域を定めず指定	
25	国	天記	三嶺・天狗塚のミヤマクマザサ及びコメツツジ群落	香美市物部町三嶺・天狗塚	三嶺から天狗塚に至る尾根筋一面にミヤマクマザサが密生し、その中にコメツツジが斑状群落を形成している。共生する規模は国内有数とされ、紅葉した姿も良い。自然の雄大さを感じる。
26	国	天記	龍河洞	香美市土佐山田町逆川	地下水の浸食によってできた鍾乳洞。洞内には巨大な鍾乳石や石筍が発達し、コウモリその他の生物が多数生息している。
27	国	天記	甲原松尾山のタチバナ群落	土佐市甲原	タチバナは日本に自生する唯一のミカン。このタチバナ群落は、石灰岩がむき出している地形に生育し、他の大きな木が育ちにくかったために、消えることなく、現在でも200本を超す群落を形成している。

資料:文化庁HP、高知県HPなど